

(様式第 10)

愛医病管第 79 号
令和 3 年 10 月 5 日

厚生労働大臣

殿

学校法人愛知医科大学
理事長 祖父江 元

愛知医科大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第 1 項及び医療法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 50 号）第 9 条の 2 の 2 の第 1 項の規定に基づき、令和 2 年度の業務に関して報告します。
記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒480-1195 愛知県長久手市岩作雁又 1 番地 1
氏 名	学校法人愛知医科大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

愛知医科大学病院

3 所在の場所

〒480-1195 愛知県長久手市岩作雁又 1 番地 1	電話(0561)62-3311
------------------------------	-----------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<input checked="" type="checkbox"/> 1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜 <input type="checkbox"/> 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

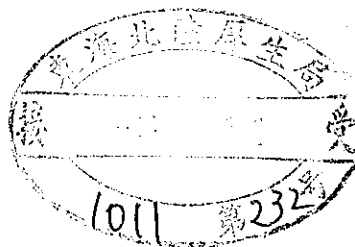
4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	有	無
内科と組み合わせた診療科名等		
①呼吸器内科	2 消化器内科	③循環器内科
④神経内科	⑥血液内科	⑦内分泌内科
9 感染症内科	⑩アレルギー疾患内科またはアレルギー科	11 リウマチ科
診療実績		

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。



(2) 外科

外科	有	無
外科と組み合わせた診療科名		
1 呼吸器外科	2 消化器外科	3 乳腺外科
4 心臓外科	5 血管外科	6 心臓血管外科
7 内分泌外科	8 小児外科	
診療実績		
小児外科は、消化器外科で診療実績としていること。		

(注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

1 精神科	2 小児科	3 整形外科	4 脳神経外科	5 皮膚科	6 泌尿器科
7 産婦人科	8 産科	9 婦人科	10 眼科	11 耳鼻咽喉科	12 放射線科
13 放射線診断科	14 放射線治療科	15 麻酔科	16 救急科		

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	有	無
歯科と組み合わせた診療科名		
1 小児歯科	2 矯正歯科	3 口腔外科
歯科の診療体制		

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 形成外科	2 リハビリテーション科	3 病理診断科	4 神経科	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
47 床	床	床	床	853 床	900 床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	476 人	232 人	555.3 人	看 護 補 助 者	1 人	診 療 エ ッ ク ス 線 技 師	0 人
歯 科 医 師	13 人	19 人	19.2 人	理 学 療 法 士	37 人	臨 床 検 査 技 師	71 人
薬 剤 師	76 人	3 人	78 人	作 業 療 法 士	12 人	検 査 衛 生 検 査 技 師	0 人
保 健 師	0 人	0 人	0 人	視 能 訓 練 士	8 人	そ の 他	0 人
助 産 師	32 人	0 人	32 人	義 肢 装 具 士	0 人	あ ん 摩 マ ッ サ ー ジ 指 圧 師	0 人
看 護 師	1,007 人	13 人	1,014.8 人	臨 床 工 学 士	21 人	医 療 社 会 事 業 従 事 者	24 人
准 看 護 師	1 人	0 人	1 人	栄 養 士	0 人	そ の 他 の 技 術 員	64 人
歯 科 衛 生 士	5 人	0 人	5 人	歯 科 技 工 士	3 人	事 務 職 員	102 人
管 理 栄 養 士	16 人	0 人	16 人	診 療 放 射 線 技 師	65 人	そ の 他 の 職 員	10 人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	49 人	眼 科 専 門 医	12 人
外 科 専 門 医	40 人	耳 鼻 咽 喉 科 専 門 医	12 人
精 神 科 専 門 医	10 人	放 射 線 科 専 門 医	15 人
小 児 科 専 門 医	17 人	脳 神 経 外 科 専 門 医	14 人
皮 膚 科 専 門 医	7 人	整 形 外 科 専 門 医	21 人
泌 尿 器 科 専 門 医	6 人	麻 酔 科 専 門 医	14 人
産 婦 人 科 専 門 医	15 人	救 急 科 専 門 医	12 人
		合 計	244 人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名(道勇 学) 任命年月日 令和3年4月1日

・医療安全管理委員会委員

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	666.4人	11.4人	677.8人
1日当たり平均外来患者数	2,308.1人	107.2人	2,415.4人
1日当たり平均調剤数	3797.1剤		
必要医師数	198.7人		
必要歯科医師数	7人		
必要薬剤師数	48人		
必要(准)看護師数	420人		

- (注)1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
集中治療室	968.97m ²	鉄筋コンクリート	病床数	49床	心電計	有・無
			人工呼吸装置	有・無	心細動除去装置	有・無
			その他の救急蘇生装置	有・無	ペースメーカー	有・無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 243.39m ² [移動式の場合] 台数 台		病床数	18床		
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床積 16.11m ² [共用室の場合] 共用する室名					
化学検査室	566.47m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 生化学自動分析装置, 検体検査			
細菌検査室	149.69m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 微生物分類同定分析装置, 自動血液培養器			
病理検査室	306.63m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) ライカBOND, ライカASP6025, サラ ティッシュ・テック フリズマ			
病理解剖室	108.24m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) パイカザード 対策解剖台, 臓器写真撮影装置, ホルミン希釈装置			
研究室	6,761.35m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 各種研究用機器(教育用機器)			
講義室	3,291.97m ²	鉄筋コンクリート	室数	20室	収容定員	2,088人
図書室	1,976m ²	鉄筋コンクリート	室数	2室	蔵書数	96,300冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
- 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	81.1 %	逆紹介率	56.6 %
算出根拠	A：紹介患者の数		18,475 人
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数		14,774 人
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数		2,675 人
	D：初診の患者の数		26,072 人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由(注)

氏名	所属	委員長 (を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
黒神聡	愛知学院大学		法律学に関する専門知識に基づいて、教育、研究又は業務を行っている者	有・無	1
鳥井彰人	瀬戸旭医師会		医療機関において医療安全に関する業務に従事した経験を持つ者又は医療安全に係る研究に従事した経験を有する者	有・無	1
鈴木孝美	長久手市・副市長		医療等の内容及び説明並びに同意文書が一般的に理解できる内容であるか等、医療を受ける立場から意見を述べる事ができる者	有・無	2
祖父江元	愛知医科大学		愛知医科大学学長	有・無	3
若槻明彦	愛知医科大学		愛知医科大学医学部長	有・無	3

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。
 1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)
 3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有・無
委員の選定理由の公表の有無	有・無
公表の方法 ホームページにて公表している。	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	4	56	ベーチェット病	29
2	筋萎縮性側索硬化症	24	57	特発性拡張型心筋症	8
3	脊髄性筋萎縮症	2	58	肥大型心筋症	0
4	原発性側索硬化症	0	59	拘束型心筋症	0
5	進行性核上性麻痺	13	60	再生不良性貧血	25
6	パーキンソン病	132	61	自己免疫性溶血性貧血	2
7	大脳皮質基底核変性症	6	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	4
8	ハンチントン病	1	63	特発性血小板減少性紫斑病	68
9	神経有棘赤血球症	0	64	血栓性血小板減少性紫斑病	1
10	シャルコー・マリイ・トゥース病	1	65	原発性免疫不全症候群	3
11	重症筋無力症	69	66	IgA腎症	20
12	先天性筋無力症候群	0	67	多発性嚢胞腎	21
13	多発性硬化症/視神経脊髄炎	49	68	黄色靫帯骨化症	4
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎/多巣性運動ニューロパチー	10	69	後縦靫帯骨化症	43
15	封入体筋炎	2	70	広範脊柱管狭窄症	0
16	クドウ・深瀬症候群	0	71	特発性大腿骨頭壊死症	21
17	多系統萎縮症	16	72	下垂体性ADH分泌異常症	7
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	39	73	下垂体性TSH分泌亢進症	1
19	ライソゾーム病	2	74	下垂体性PRL分泌亢進症	16
20	副腎白質ジストロフィー	1	75	クッシング病	1
21	ミトコンドリア病	3	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	2
22	もやもや病	13	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	21
23	プリオン病	0	78	下垂体前葉機能低下症	93
24	亜急性硬化性全脳炎	0	79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	1
25	進行性多巣性白質脳症	0	80	甲状腺ホルモン不応症	0
26	HTLV-1関連脊髄症	1	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	1
27	特発性基底核石灰化症	0	82	先天性副腎低形成症	0
28	全身性アミロイドーシス	34	83	アジソン病	0
29	ウルリッヒ病	0	84	サルコイドーシス	61
30	遠位型ミオパチー	0	85	特発性間質性肺炎	36
31	ベスレムミオパチー	0	86	肺動脈性肺高血圧症	5
32	自己貪食空胞性ミオパチー	0	87	肺静脈閉塞症/肺毛細血管腫症	0
33	シュワルツ・ヤンベル症候群	0	88	慢性血栓性肺高血圧症	2
34	神経線維腫症	13	89	リンパ管腫症	3
35	天疱瘡	15	90	網膜色素変性症	8
36	表皮水疱症	0	91	バッド・キアリ症候群	1
37	膿疱性乾癬(汎発型)	6	92	特発性門脈圧亢進症	2
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	0	93	原発性胆汁性肝硬変	13
39	中毒性表皮壊死症	0	94	原発性硬化性胆管炎	1
40	高安動脈炎	12	95	自己免疫性肝炎	6
41	巨細胞性動脈炎	3	96	クローン病	71
42	結節性多発動脈炎	9	97	潰瘍性大腸炎	130
43	顕微鏡的多発血管炎	30	98	好酸球性消化管疾患	5
44	多発血管炎性肉芽腫症	11	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	0
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	14	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0
46	悪性関節リウマチ	4	101	腸管神経節細胞減少症	0
47	パージャー病	3	102	ルビンシュタイン・テイビ症候群	0
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	1	103	CFC症候群	0
49	全身性エリテマトーデス	193	104	コステロ症候群	0
50	皮膚筋炎/多発性筋炎	79	105	チャージ症候群	0
51	全身性強皮症	76	106	クリオピリン関連周期熱症候群	0
52	混合性結合組織病	20	107	全身型若年性特発性関節炎	4
53	シェーグレン症候群	10	108	TNF受容体関連周期性症候群	0
54	成人スチル病	16	109	非典型性溶血性尿毒症症候群	0
55	再発性多発軟骨炎	6	110	ブラウ症候群	0

(注) 「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
111	先天性ミオパチー	0	166	弾性線維性仮性黄色腫	1
112	マリネスコ・シェーグレン症候群	0	167	マルファン症候群	0
113	筋ジストロフィー	2	168	エーラス・ダングロス症候群	0
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	0	169	メンケス病	0
115	遺伝性周期性四肢麻痺	0	170	オクシピタル・ホーン症候群	0
116	アトピー性脊髄炎	0	171	ウィルソン病	0
117	脊髄空洞症	2	172	低ホスファターゼ症	0
118	脊髄髄膜瘤	0	173	VATER症候群	0
119	アイザックス症候群	1	174	那須・ハコラ病	0
120	遺伝性ジストニア	0	175	ウィーバー症候群	0
121	神経フェリチン症	0	176	コフィン・ローリー症候群	0
122	脳表ヘモジデリン沈着症	1	177	有馬症候群	0
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症	0	178	モワット・ウィルソン症候群	0
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	0	179	ウィリアムズ症候群	0
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症	0	180	ATR - X症候群	0
126	ベリー症候群	0	181	クルーゾン症候群	0
127	前頭側頭葉変性症	0	182	アペール症候群	0
128	ピッカースタッフ脳幹脳炎	0	183	ファイファー症候群	0
129	痙攣重積型(二相性)急性脳症	0	184	アントレー・ピクスラー症候群	0
130	先天性無痛無汗症	1	185	コフィン・シリズ症候群	0
131	アレキサンダー病	0	186	ロスマンド・トムソン症候群	0
132	先天性核上性球麻痺	0	187	歌舞伎症候群	0
133	メビウス症候群	0	188	多脾症候群	0
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	0	189	無脾症候群	0
135	アイカルディ症候群	0	190	鰓耳腎症候群	0
136	片側巨脳症	0	191	ウェルナー症候群	1
137	限局性皮質異形成	0	192	コケイン症候群	0
138	神経細胞移動異常症	0	193	ブラダー・ウィリ症候群	1
139	先天性大脳白質形成不全症	0	194	ソトス症候群	0
140	ドラベ症候群	0	195	ヌーナン症候群	0
141	海馬硬化を伴う内側頭葉てんかん	0	196	ヤング・シンブソン症候群	0
142	ミオクロニー欠伸てんかん	0	197	1p36欠失症候群	0
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	0	198	4p欠失症候群	0
144	レノックス・ガスター症候群	0	199	5p欠失症候群	0
145	ウエスト症候群	0	200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0
146	大田原症候群	0	201	アンジェルマン症候群	0
147	早期ミオクロニー脳症	0	202	スミス・マギニス症候群	0
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0	203	22q11.2欠失症候群	0
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0	204	エマヌエル症候群	0
150	環状20番染色体症候群	0	205	脆弱X症候群関連疾患	0
151	ラスムッセン脳炎	0	206	脆弱X症候群	0
152	P CDH19関連症候群	0	207	総動脈幹遺残症	0
153	難治頻回部分発作重積型急性脳炎	0	208	修正大血管転位症	0
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳	0	209	完全大血管転位症	0
155	ランドウ・クレフナー症候群	0	210	単心室症	0
156	レット症候群	0	211	左心低形成症候群	0
157	スタージ・ウェーバー症候群	0	212	三尖弁閉鎖症	0
158	結節性硬化症	0	213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	0
159	色素性乾皮症	0	214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	0
160	先天性魚鱗癬	0	215	ファロー四徴症	0
161	家族性良性慢性天疱瘡	0	216	両大血管右室起始症	0
162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	9	217	エプスタイン病	0
163	特発性後天性全身性無汗症	19	218	アルポート症候群	0
164	眼皮膚白皮症	0	219	ギャロウェイ・モワット症候群	0
165	肥厚性皮膚骨膜炎	0	220	急速進行性糸球体腎炎	0

(注) 「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
221	抗糸球体基底膜腎炎	1	276	軟骨無形成症	0
222	一次性ネフローゼ症候群	27	277	リンパ管腫症/ゴーム病	1
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	0	278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	0
224	紫斑病性腎炎	4	279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	0
225	先天性腎性尿崩症	0	280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	2
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	0	281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	4
227	オスラー病	2	282	先天性赤血球形成異常性貧血	0
228	閉塞性細気管支炎	0	283	後天性赤芽球癆	1
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	11	284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	0
230	肺胞低換気症候群	1	285	ファンconi貧血	0
231	1-アンチトリプシン欠乏症	0	286	遺伝性鉄芽球性貧血	0
232	カーニー複合	0	287	エプスタイン症候群	0
233	ウォルフラム症候群	0	288	自己免疫性出血病XIII	1
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	0	289	クローンカイト・カナダ症候群	0
235	副甲状腺機能低下症	1	290	非特異性多発性小腸潰瘍症	0
236	偽性副甲状腺機能低下症	1	291	ヒルシュブルング病(全結腸型又は小腸型)	0
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	0	292	総排泄腔外反症	0
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	3	293	総排泄腔遺残	0
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	0	294	先天性横隔膜ヘルニア	0
240	フェニルケトン尿症	0	295	乳幼児肝巨大血管腫	0
241	高チロシン血症1型	0	296	胆道閉鎖症	0
242	高チロシン血症2型	0	297	アラジール症候群	0
243	高チロシン血症3型	0	298	遺伝性腓炎	0
244	メーブルシロップ尿症	0	299	嚢胞性線維症	0
245	プロピオン酸血症	0	300	IgG4関連疾患	12
246	メチルマロン酸血症	0	301	黄斑ジストロフィー	0
247	イソ吉草酸血症	0	302	レーベル遺伝性視神経症	0
248	グルコーストランスporter-1欠損症	0	303	アッシャー症候群	0
249	グルタル酸血症1型	0	304	若年発症型両側性感音難聴	0
250	グルタル酸血症2型	0	305	遷移性内リンパ水腫	0
251	尿酸サイクル異常症	0	306	好酸球性副鼻腔炎	49
252	リジン尿性蛋白不耐症	0	307	カナバン病	0
253	先天性葉酸吸収不全	0	308	進行性白質脳症	0
254	ホルフィリン症	0	309	進行性ミオクローヌステんかん	0
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	0	310	先天異常症候群	0
256	筋型糖原病	0	311	先天性三尖弁狭窄症	0
257	肝型糖原病	1	312	先天性僧帽弁狭窄症	0
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0	313	先天性肺静脈狭窄症	0
259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0	314	左肺動脈右肺動脈起始症	0
260	シトステロール血症	0	315	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/LMX1B関連腎症	0
261	タンジール病	0	316	カルニチン回路異常症	0
262	原発性高カイロミクロン血症	1	317	三頭酵素欠損症	0
263	脳髄黄色腫症	0	318	シトリン欠損症	0
264	無リポタンパク血症	0	319	セピアプテリン還元酵素(SR)欠損症	0
265	脂肪萎縮症	0	320	先天性グリコシルホスファチジルレノシトール(GPI)欠損症	0
266	家族性地中海熱	1	321	非ケトーシス型高グリシン血症	0
267	高IgD症候群	0	322	ケチオラーゼ欠損症	0
268	中條・西村症候群	0	323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	0
269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	0	324	メチルグルタコン酸尿症	0
270	慢性再発性多発性骨髄炎	0	325	遺伝性自己炎症疾患	0
271	強直性脊椎炎	11	326	大理石骨病	0
272	進行性骨化性線維異形成症	0	327	特異性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	2
273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	0	328	前眼部形成異常	0
274	骨形成不全症	0	329	無虹彩症	0
275	タナトフォリック骨異形成症	0	330	先天性気管狭窄症	0

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・データ提出加算(2)
・歯科外来診療環境体制加算	・栄養サポートチーム加算
・歯科診療特別対応連携加算	・緩和ケア診療加算
・特定機能病院入院基本料(一般7対1、精神7対1)	・看護職員夜間配置加算
・臨床研修病院入院診療加算	・療養環境加算
・超急性期脳卒中加算	・病棟薬剤業務実施加算(1)
・妊産婦緊急搬送入院加算	・病棟薬剤業務実施加算(2)
・診療録管理体制加算(2)	・精神疾患診療体制加算
・急性期看護補助体制加算	・精神科リエゾンチーム加算
・重症者等療養環境特別加算	・精神科身体合併症管理加算
・医療安全対策加算(1)	・医師事務作業補助体制加算1
・感染防止対策加算(1)	・精神科急性期医師配置加算
・感染防止対策地域連携加算	・入院時支援加算
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・抗菌薬適正使用支援加算
・ハイリスク妊娠管理加算	・歯科点数表の初診料の注1に規定する施設基準
・ハイリスク分娩管理加算	・早期離床・リハビリテーション加算
・退院支援加算(1) 地域連携診療計画加算	・
・地域歯科診療支援病院入院加算	・
・特定集中治療室管理料(2)	・
・救命救急入院料(3)(4)(充実度評価A、高度救命救急センター、小児加算)	・
・新生児特定集中治療室管理料	・
・新生児治療回復室入院医療管理料	・
・小児入院医療管理料(2)	・
・救急医療管理加算	・
・無菌治療室管理加算(1)	・
・患者サポート体制充実加算	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・高度難聴指導管理料	・透析液水質確保加算(2)
・糖尿病合併症管理料	・病理診断管理加算(2)
・がん性疼痛緩和指導管理料	・口腔病理診断管理加算(2)
・がん患者指導管理料(1)	・外来緩和ケア管理料
・がん患者指導管理料(2)	・定位放射線治療
・がん患者指導管理料(3)	・体外照射呼吸性移動対策加算
・肝炎インターフェロン治療計画料	・定位放射線治療呼吸性移動対策加算
・薬剤管理指導料	・外傷全身CT加算
・医療機器安全管理料(1)(2)(歯科)	・冠動脈CT撮影加算
・歯科治療総合医療管理料()及び()	・心臓MRI撮影加算
・在宅患者歯科治療総合医療管理料()及び()	・強度変調放射線治療(IMRT)
・造血器腫瘍遺伝子検査	・CAD / CAM冠
・HPV核酸検出	・乳房MRI撮影加算
・検体検査管理加算(4)	・胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る)
・遺伝カウンセリング加算	・骨移植術(軟骨移植術を含む)(同種骨移植(非生体)(同種骨移植)(特殊なものに限る))
・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	・腹腔鏡下肝切除術
・植込型心電図検査	・遺伝学的検査
・皮下連続式グルコース測定	・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・長期継続頭蓋内脳波検査	・検査・画像情報提供加算及び電子的診療情報評価料
・神経学的検査	・腹腔鏡下小切開骨盤内リンパ節群郭清術
・補聴器適合検査	・腹腔鏡下小切開後腹膜リンパ節群郭清術
・コンタクトレンズ検査料(1)	・腹腔鏡下小切開後腹膜腫瘍摘出術
・小児食物アレルギー負荷検査	・腹腔鏡下小切開後腹膜悪性腫瘍手術
・内服・点滴誘発試験	・腹腔鏡下小切開副腎摘出術
・センチネルリンパ節生検	・腹腔鏡下小切開腎部分切除術
・CT撮影及びMRI撮影	・腹腔鏡下小切開腎摘出術
・抗悪性腫瘍剤処方管理加算	・腹腔鏡下小切開尿管腫瘍摘出術

・外来化学療法加算(1)	・腹腔鏡下小切開腎(尿管)悪性腫瘍手術
・無菌製剤処理料	・腹腔鏡下小切開膀胱腫瘍摘出術
・脳血管疾患等リハビリテーション料(1)	・肺悪性腫瘍手術(壁側・臓側胸膜全切除(横隔膜、心膜合併切除を伴うもの)に限る。
・運動器リハビリテーション料(1)	・がん患者リハビリテーション料
・呼吸器リハビリテーション料(1)	・歯根端切除手術の注3
・脳血管疾患等リハビリテーション料(1)の初期加算	・経カテーテル大動脈弁置換術
・運動器リハビリテーション料(1)の初期加算	・ロービジョン検査判断料
・呼吸器リハビリテーション料(1)の初期加算	・口腔病理診断管理加算2
・医療保護入院等診療料	・保険医療機関間の連携による病理診断1
・一酸化窒素吸入療法	・検体検査国際標準検査管理加算
・歯科技工加算(1)及び(2)	・人工臓器検査
・悪性黒色腫センチネルリンパ節加算	・人工臓器療法
・脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。)及び交換術、脊髄刺激装置植込術及び交換術	・腹腔鏡下胃縮小術(スリーブ状切除によるもの)
・人工内耳植込術	・人工腎臓
・乳がんセンチネルリンパ節加算(1)(2)	・在宅持続陽圧呼吸療法指導管理料の遠隔モニタリング加算
・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)(高速回転式経皮経管アテレクトミーカテーテルによるものに限る)	・バルーン閉塞下経静脈的塞栓術
・経皮的中隔心筋焼灼術	・後縦靭帯骨化症手術(前方進入によるもの)
・ペースメーカー移植術及び交換術	・皮膚移植術(死体)
・呼吸ケアチーム加算	・療養・就労両立支援指導料の注2に掲げる相談体制充実加算
・心大血管疾患リハビリテーション料(1)	・ハイリスク妊産婦連携指導料1
・人工尿道括約筋植込・置換術	・ハイリスク妊産婦連携指導料2
・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)	・小児鎮静下MRI撮影加算
・認知症専門診断管理料	・胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・臓器移植後患者指導管理料	・胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・骨移植術	・1回線量増加加算(全乳房照射・前立腺照射)
・手術用顕微鏡加算	・緑内障手術(水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)
・補助人工心臓	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)
・同種死体腎移植術	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮頸がんに限る。)
・植込型骨導補聴器移植術及び交換術	・仙骨神経刺激装置植込術、仙骨神経刺激装置交換術(過活動膀胱に対して実施する場合)
・心臓ペースメーカー指導管理料 植込型除細動器移行期加算	・胸腔鏡下弁形成術
・持続血糖測定器加算及び皮下連続式グルコース測定	・胸腔鏡下弁置換術

・胃瘻造設術	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・胃瘻造設時嚥下機能評価加算	・脳波検査診断料1
・医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術	・精密触覚機能検査
・高エネルギー放射線治療 1回線量増加加算	・硬膜外自家注入
・HPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	・悪性腫瘍病理標本加算
・歯科口腔リハビリテーション料(2)	・骨髄微少残存病変量
・緑内障手術(治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))	・導入期加算2
・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)	・腎代替療法実績加算
・経皮的冠動脈形成術	・画像診断管理加算(3)
・経皮的冠動脈ステント留置術	
・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術	
・治療抵抗性統合失調症治療指導管理料	
・ポジトロン断層撮影	
・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影	
・輸血管理料(1)・適正使用加算	
・画像誘導放射線治療加算(IGRT)	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。
(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二 年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	1. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	臨床科病理症例検討会 38回 カンサーボード 10回 ミニCPC 7回 / CPC 2回
剖 検 の 状 況	剖検症例数 16例 / 剖検率 2.4%

(注) 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
				補	元
脂肪肝を背景とする代謝関連がん発生の病態解明に関する研究	米田 政志	肝胆膵内科	1,000,000	補 委	日本医療研究開発機構研究費
胆汁酸代謝調節機構を標的としたB型肝炎ウイルス制御	伊藤 清顕	肝胆膵内科	65,130,000	補 委	日本医療研究開発機構研究費
B型肝炎再活性化や発癌の原因となるエンベロープ蛋白質追加糖鎖修飾の分布と機能解析	伊藤 清顕	肝胆膵内科	1,430,000	補 委	日本学術振興会
HBV再活性化症例におけるHBVゲノム変異および免疫抑制剤による抗HBV効果の検討	伊藤 清顕	肝胆膵内科	910,000	補 委	日本医療研究開発機構研究費
コフィリンによるNASH進展抑制機序の解明	中出 幸臣	肝胆膵内科	1,690,000	補 委	日本学術振興会
胆管癌に対する新規局所治療法の開発	井上 匡央	肝胆膵内科	1,300,000	補 委	日本学術振興会
若年性心筋梗塞に対するオメガ3脂肪酸補充療法の有用性および発症予防の検討	安藤 博彦	循環器内科	1,170,000	補 委	日本学術振興会
中性脂肪蓄積心筋血管症に対する特異的栄養療法の動脈硬化抑制効果に関する検討	中野 雄介	循環器内科	1,820,000	補 委	日本学術振興会
機械感受性チャネルPiezo1とメカノセンサーを標的とした呼吸器疾患の病態解明	伊藤 理	呼吸器・アレルギー内科	1,300,000	補 委	日本学術振興会
家族性膝蓋骨無形成症の新規遺伝子の同定と疾患発症の解析	高木 潤子	内科学講座 (内分泌・代謝内科)	1,100,000	補 委	日本学術振興会
家族性先端巨大症罹患アスリートの発掘 - 新規原因遺伝子同定への学際的アプローチ	森田 博之	内科学講座 (内分泌・代謝内科)	3,770,000	補 委	日本学術振興会
プリオン病のサーベイランスと感染予防に関する調査研究	道勇 学	内科学講座(神経内科)	1,000,000	補 委	厚生労働省
パーキンソン病治療効果の客観的判定手段としての脳血流SPECT検査の有用性	田口 宗太郎	パーキンソン病総合治療センター	3,640,000	補 委	日本学術振興会
CAGリピート編集によるポリグルタミン病の根治的治療法の開発	岡田 洋平	内科学講座(神経内科)	1,332,842	補 委	日本学術振興会

疾患iPS細胞を用いた運動ニューロン疾患の神経・筋相互作用分子基盤の解明	伊藤 卓治	内科学講座(神経内科)	828,005	補委	日本学術振興会
疾患特異的iPS細胞を用いたポリグルタミン病創薬スクリーニングシステムの開発	丹羽 淳一	内科学講座(神経内科)	1,379,696	補委	日本学術振興会
疾患iPS細胞を活用した液性因子による運動ニューロン疾患の早期病態解明	岡田 洋平	内科学講座(神経内科)	4,700,000	補委	日本学術振興会
疾患iPS細胞を用いた球脊髄性筋萎縮症の骨格筋病態の解明	道勇 学	内科学講座(神経内科)	2,343,879	補委	日本学術振興会
iPS細胞による革新的神経・筋共培養システムを用いた運動ニューロン疾患の病態解析	伊藤 卓治	内科学講座(神経内科)	1,200,000	補委	日本学術振興会
MYRF遺伝子を起点とした発熱時言動異常の病態解明	倉橋 宏和	内科学講座(神経内科)	377,296	補委	日本学術振興会
疾患iPS細胞による神経・筋共培養を活用した神経変性疾患の病態解析システムの開発	伊藤 卓治	内科学講座(神経内科)	2,901,240	補委	日本学術振興会
Drug screening system for early pathology of SBMA using disease specific iPSCs and novel	デ・アラウジョ・エルクラノ ブルーノ	内科学講座(神経内科)	1,600,000	補委	日本学術振興会
iPS細胞を用いた運動ニューロン疾患の神経筋シナプス機能の解析	丹羽 淳一	内科学講座(神経内科)	2,080,000	補委	日本学術振興会
大規模疾患レジストリとiPS細胞技術を活用した筋萎縮性側索硬化症に対する新規治療薬開発	岡田 洋平	内科学講座(神経内科)	15,000,000	補委	日本医療研究開発機構
筋萎縮性側索硬化症克服のためのDeep-Phenotypingの統合解析を通じた開発研究	岡田 洋平	内科学講座(神経内科)	15,500,000	補委	日本医療研究開発機構
TDP-43を標的とした筋萎縮性側索硬化症の分子病態解明と制御	岡田 洋平	内科学講座(神経内科)	2,000,000	補委	日本医療研究開発機構
ヒト特異的RNA代謝異常とシナプス形態に基づく筋萎縮性側索硬化症の病態解明、治療法研究	岡田 洋平	内科学講座(神経内科)	2,400,000	補委	日本医療研究開発機構
神経・筋相互作用を標的とした運動神経疾患の病態解明と治療開発	岡田 洋平	内科学講座(神経内科)	28,000,000	補委	日本医療研究開発機構
孤発性筋萎縮性側索硬化症の双方向トランスレショナル研究による病態介入標的の同定と核酸医薬の開発研究	岡田 洋平	内科学講座(神経内科)	6,000,000	補委	日本医療研究開発機構
造血細胞移植関連遺伝子多型機能に基づく免疫制御性マイクロRNAの探索	高見 昭良	血液内科	1,000,000	補委	日本学術振興会

家族性膝蓋骨無形成症の新規原因遺伝子の同定と疾患発症機序の解析	高見 昭良	血液内科	200,000	補委	日本学術振興会
ゲノム編集によるFLT3変異改変ヒト白血病細胞の作製と新規治療法の探索	花村 一郎	血液内科	700,000	補委	日本学術振興会
がん免疫抑制環境の改善に基づく新たながん免疫療法の開発に向けた基礎的研究	花村 一郎	血液内科	100,000	補委	日本学術振興会
PBKが骨髄腫の悪性化に寄与する作用機序の解明と治療標的分子としての可能性の検討	花村 一郎	血液内科	50,000	補委	日本学術振興会
造血細胞移植の腸管免疫をToll様受容体で紐解く	内野 かおり	血液内科	1,200,000	補委	日本学術振興会
遺伝子変異にもとづいた難治性骨髄腫の個別化治療をめざした基礎的研究	花村 一郎	血液内科	255,000	補委	日本血液学会
糖尿病性多発神経障害におけるO-GlcNAc修飾の役割の解明	中村 二郎	糖尿病内科	1,040,000	補委	日本学術振興会
糖尿病性虚血性疾患に対する体性幹細胞由来分泌因子を用いた治療法の開発	神谷 英紀	糖尿病内科	1,690,000	補委	日本学術振興会
糖尿病性多発神経障害の病態におけるATP感受性Kチャンネルの役割の解明	加藤 義郎	糖尿病内科	1,950,000	補委	日本学術振興会
糖尿病神経障害・糖尿病足病変の診断ガイドラインならびに管理法の確立	中村 二郎	糖尿病内科	5,460,000	補委	厚生労働省
結節性硬化症の知的障害・自閉症に対する新規治療薬の探索	奥村 彰久	小児科	6,240,000	補委	日本医療研究開発機構
MERS - 異常言動スペクトラムの分子生物学的基盤の解明	奥村 彰久	小児科	1,430,000	補委	日本学術振興会
妊娠高血圧症候群に起因するSGAの慢性肺疾患の重症化機序解明と新規治療法開発	奥村 彰久	小児科	195,000	補委	日本学術振興会
良質なエビデンスに基づく急性脳症の診療に向けた体制整備	奥村 彰久	小児科	300,000	補委	厚生労働省
稀少てんかんに関する研究調査	奥村 彰久	小児科	700,000	補委	厚生労働省
急性弛緩性麻痺、急性脳炎・脳症等の神経疾患に関する網羅的病原体検索を含めた原因及び病態の究明、治療法の確立に資する臨床疫学研究	奥村 彰久	小児科	400,000	補委	厚生労働省
MYRF遺伝子を起点とした発熱性言動異常の病態解	倉橋 宏和	小児科	1,430,000	補	日本学術

元器研白動共中ソ内容解明	倉橋 宏和	小児科	1,430,000	委	振興会
ビタミンB6依存性てんかんの実態解明と包括的診療指針の作成	倉橋 宏和	小児科	1,600,000	補 委	てんかん治療研究振興財団
MCT8異常症の新規診断法と治療法の開発、および発達遅滞児を対象とした大規模解析	岩山 秀之	小児科	1,300,000	補 委	日本学術振興会
次世代シーケンス解析を用いた新規てんかん遺伝子の探索	東 慶輝	小児科	1,300,000	補 委	日本学術振興会
女性ホルモンが非浸潤性肺腺癌に及ぼす影響	矢野 智紀	呼吸器外科	4,550,000	補 委	日本学術振興会
バーチャルリアリティ技術を用いたMRI非腫瘍性乳癌手術支援システムの開発	中野 正吾	乳腺・内分泌外科	4,290,000	補 委	日本学術振興会
網羅的遺伝子解析から抽出した遺伝子産物を指標とする乳癌細分類の試み	井戸 美来	乳腺・内分泌外科	4,290,000	補 委	日本学術振興会
治療から予防へ:エピソードノパター解析に基づく革新的免疫制御法の創出	小林 孝彰	外科学講座(腎移植外科)	6,630,000	補 委	日本学術振興会
抗ドナーHLA抗体産生を決定する濾胞ヘルパーT細胞クロノタイプの同定とその制御	小林 孝彰	外科学講座(腎移植外科)	9,750,000	補 委	日本学術振興会
脳血管内治療支援ロボットの開発	宮地 茂	脳神経外科	700,000	補 委	日本学術振興会
糖代謝異常への早期介入による靭帯骨化症是正の可能性を探る研究	平澤 敦彦	整形外科	650,000	補 委	日本学術振興会
最小侵襲手術に対応可能なセメントシステムの有限要素モデルを用いた開発	森島 達観	整形外科	650,000	補 委	日本学術振興会
骨格筋由来マイオカインによる臓器連関を標的した排尿筋低活動の新規創薬研究	馬嶋 剛	泌尿器科	4,000,000	補 委	日本学術振興会
若年女性に増加している子宮内膜症は閉経後骨粗鬆症の危険因子か?	松下 宏	産科・婦人科	1,300,000	補 委	日本学術振興会

細菌由来メンブレンヴェシクルの高感度検出法の開発と慢性炎症性血管疾患からの同定	宮崎 英隆	眼形成・眼窩・涙道外科	3,510,000	補委	日本学術振興会
頭頸部がん治療における新たな免疫化学療法の開発-CTLと抗がん薬併用の意義	小川 徹也	耳鼻咽喉科	1,325,839	補委	日本学術振興会
大腸がん少数個腹部リンパ節再発に対する逐次免疫療法併用・寡分割放射線治療の標準化	伊藤 誠	放射線科	1,560,000	補委	日本学術振興会
抗菌・鎮痛性能を有すX線可視化高吸水性ポリマー製球状物質を用いた血管塞栓術の確立	成田 晶子	放射線科	2,080,000	補委	日本学術振興会
RNAiを用いた脳水チャネル機能調節による脳浮腫抑制の臨床応用	藤田 義人	麻酔科	910,000	補委	日本学術振興会
敗血症性心筋症の病態生理学的解明およびカテコラミン類修飾作用の研究	畠山 登	周術期集中治療部	1,430,000	補委	日本学術振興会
脳水チャネル調節での脳浮腫抑制と低酸素プレコンディショニングによる脳神経保護	石原 亮太	麻酔科	1,690,000	補委	日本学術振興会
細胞外微小環境の制御による次世代のリンパ節移植術の開発	古川 洋志	形成外科	2,080,000	補委	日本学術振興会
多発外傷時における白血球遺伝子発現プロファイル解析:T-iPS細胞療法の応用	武山 直志	救命救急科	520,000	補委	日本学術振興会
敗血症におけるInnate Lymphoid Cell の機能解析	津田 雅庸	救命救急科	910,000	補委	日本学術振興会
侵襲時の栄養代謝動態の変化と治療的介入の可能性	苛原 隆之	救命救急科	1,300,000	補委	日本学術振興会
RNA scopeを用いた末消性T細胞性リンパ腫、非特定期の微小環境解析	佐藤 啓	病理診断科	2,470,000	補委	日本学術振興会
IgG4関連疾患の診断基準並びに診療指針の確立を目指す研究	佐藤 啓	病理診断科	500,000	補委	厚生労働省
脂肪組織由来間葉系幹細胞-造血幹細胞における代謝経路解析:抗加齢作用に注目して	中山 享之	中央臨床検査部	1,430,000	補委	日本学術振興会
輸血医療の安全性向上のためのデータ構築研究	加藤 栄史	輸血部	630,000	補委	厚生労働省
骨格筋再生による疼痛性癬痕治療法の研究:間葉系幹細胞の選択と細胞外環境の解析	牛田 享宏	痛みセンター	500,000	補委	日本学術振興会

腸内細菌叢の痛みの認知 や調節機能におよぼすメ カニズム	新井 健一	痛みセンター	900,000	補 委	日本学術 振興会
若年慢性疼痛における睡眠 週間の調査およびアセス メントツールとしての睡眠 検査の検討	尾張 慶子	痛みセンター	1,700,000	補 委	日本学術 振興会
歯科慢性痛患者を対象と した認知行動療法プログラ ムの作成と有効性の検討	西須 大徳	痛みセンター	140,000	補 委	日本学術 振興会
慢性疼痛診療システムの 均てん化と痛みセンター 診療データベースの活用 による医療向上を目指す 研究	牛田 享宏	痛みセンター	5,000,000	補 委	厚生労働 省
慢性疼痛患者に対する簡 便かつ多面的な疼痛感作 評価方の開発	牛田 享宏	痛みセンター	1,000,000	補 委	厚生労働 省
慢性の痛み患者への就労 支援/仕事と治療の両立 支援および労働生産性の 向上に寄与するマニュアル の開発と普及・啓発	井上 真輔	痛みセンター	300,000	補 委	厚生労働 省
種々の症状を呈する難治 性疾患における中枢神経 感作の役割の解明と患者 ケアの向上を目指した複 数疾患領域統合多施設共 同疫学研究	西原 真理	痛みセンター	300,000	補 委	厚生労働 省
慢性疼痛診療システム普 及・人材養成モデル事業 東海・北陸ブロック	牛田 享宏	痛みセンター	13,800,000	補 委	厚生労働 省
精神的ストレスで惹起され る循環障害の細胞内機序 と麻酔薬の修飾効果に関 する研究	渡辺 員支	周産期母子医療セン ター	65,000	補 委	日本学術 振興会
重症循環器疾患、脳血管 疾患合併症妊娠の予後改 善因子の研究 (分担)家庭血圧による妊 娠高血圧症候群の早期診 断と予後予測の試み	渡辺 員支	周産期母子医療セン ター	200,000	補 委	2020年度 循環器病 研究開発 費
妊娠高血圧症候群妊婦に おける腎機能障害と将来 の慢性腎不全との関連性 についての検討	渡辺 員支	周産期母子医療セン ター	500,000	補 委	一般財団 法人 愛知 健康増進 財団
SGA児の血小板減少の機 序解明と血小板制御によ る神経発達改善への治療 戦略	竹下 覚	周産期母子医療セン ター	4,160,000	補 委	日本学術 振興会
NICU入院中の早期運動 負荷による新たな早産児 の発育改善への試み	森 麻里	周産期母子医療セン ター	260,000	補 委	日本学術 振興会

副腎不全とグリアに注目した脳室周囲白質軟化症の病態解明と新規予防法の確立	上田 博子	周産期母子医療センター	1,690,000	補 委	日本学術振興会
--------------------------------------	-------	-------------	-----------	--------	---------

計 90

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Yamaguchi Y, Nakagawa M, Nakagawa S	愛知医科大学 消化管内科	Rapidly Progressing Aseptic Abscesses in a Patient with Ulcerative Colitis.	Intern Med. 2021 Mar 1;60(5):725-730	Original Article
2	Akira Koshino, Satoshi Inoue, Akane Sugimura Nagata	愛知医科大学 消化管内科	High phospho histone H3 expression uniquely predicts favorable survival among four markers of cellular proliferation in colorectal cancer	Pathology International. 2021 May;71(5):316-324	Original Article
3	Akane Sugimura- Nagata, Akira Koshino, Satoshi Inoue	愛知医科大学 消化管内科	Expression and Prognostic Significance of CD47 SIRPA Macrophage Checkpoint Molecules in Colorectal Cancer	International Journal of Molecular Sciences. 2021 Mar 7;22(5):2690.	Original Article
4	Ebi M, Ochiai T, Sugiyama T	愛知医科大学 消化管内科	Endoscopic resection of gangliocytic paraganglioma of the duodenum: a case report.	Clin J Gastroenterol. 13(2): 203-208, 2020.	Original Article
5	Ogasawara N, Yamaguchi Y, Takahama T	愛知医科大学 消化管内科	Radiofrequency catheter ablation- induced gastroparesis successfully treated with administration of mosapride citrate: two case reports.	Clin J Gastroenterol. 2020 Apr;13(2):182-185.	Original Article
6	Ito K, Okumura A, Takeuchi J,et al.	愛知医科大学病院 肝胆膵 内科	Dual Agonist of Farnesoid X Receptor and G Protein- coupled Receptor TGR5 Inhibits Hepatitis B Virus Infection in Vitro and in Vivo	Hepatology. 2021 Jul;74(1):83-98	Original Article

7	Ito K	愛知医科大学病院 肝胆膵 内科	Mutations in the envelope protein associated with hepatitis B virus reactivation	Hepato Res. 2021 Feb;51(2):151-153	Original Article
8	Nakade Y, Kitano R, Sakamoto K	愛知医科大学病院 肝胆膵 内科	Characteristics of bile acid composition in high fat diet-induced nonalcoholic fatty liver disease in obese diabetic rats.	PLoS One 2021Feb 24;16(2):e0247303.	Original Article
9	Nakade Y, Kitano R, Yamauchi T	愛知医科大学病院 肝胆膵 内科	Effect of Adrenergic Agonists on High-Fat Diet-Induced Hepatic Steatosis in Mice.	Int J Mol Sci 2020;2, Dec 10;21(24):9392.	Original Article
10	Inoue T, Suzuki Y, Okumura F, et al.	愛知医科大学病院 肝胆膵 内科	Intraductal placement of a fully covered metal stent with a long string for distal malignant biliary obstruction without endoscopic sphincterotomy: Prospective multi-center feasibility study	Dig Endosc. 2020 Sep;32(6):949-956.	Original Article
11	Inoue T, Ito K, Yoneda M.	愛知医科大学病院 肝胆膵 内科	Novel balloon catheter-based endobiliary radiofrequency ablation system: Ex-vivo experimental study.	Dig Endosc. 2020 Sep;32(6):974-978.	Original Article
12	Inoue T, Ibusuki M, Kitano R, et al.	愛知医科大学病院 肝胆膵 内科	Early Covered Self-Expandable Metal Stent Placement Is Effective for Massive Post-endoscopic Sphincterotomy Bleeding.	Dig Dis Sci. 2020 Nov;65(11):3324-3331.	Original Article
13	Inoue T, Ito K, Yoneda M.	愛知医科大学病院 肝胆膵 内科	Simultaneous triple side-by-side metal stent deployment for malignant hilar biliary obstruction.	Dig Endosc. 2020 May;32(4):e65-e66.	Case report

14	Inoue T, Ibusuki M, Kitano R, et al.	愛知医科大学病院 肝胆膵内科	Endobiliary radiofrequency ablation combined with bilateral metal stent placement for malignant hilar biliary obstruction	Endoscopy. 2020 Jul;52(7):595-599.	Original Article
15	Inoue T, Tsuzuki T, Takahara T, et al.	愛知医科大学病院 肝胆膵内科	Prospective evaluation of 25-gauge Franseen needles for endoscopic ultrasound-guided fine-needle biopsy of solid pancreatic masses.	Endosc Int Open. 2020 Apr;8(4):E566-E570.	Original Article
16	Inoue T, Kitano R, Ito K, et al.	愛知医科大学病院 肝胆膵内科	Double Radiofrequency Ablation with Metal Stent Placement for Refractory Benign Biliary and Pancreatic Duct Strictures	J Gastrointestin Liver Dis. 2020 Jun 3;29(2):144.	Case report
17	Ibusuki M, Inoue T, Kitano R, et al.	愛知医科大学病院 肝胆膵内科	Gemcitabine plus nab-paclitaxel with initial dose reduction for older patients with advanced pancreatic cancer	J Geriatr Oncol. 2021 Jan;12(1):118-121.	Original Article
18	Inoue T, Kitano R, Yoneda M.	愛知医科大学病院 肝胆膵内科	Modified combined stent-by-stent and stent-in-stent method for tri-sectoral metal stenting in patients with malignant hilar biliary obstruction	Dig Endosc. 2020 Nov;32(7):e167-e168.	Case report
19	Inoue T, Ibusuki M, Kitano R, et al.	愛知医科大学病院 肝胆膵内科	Endoscopic Ultrasound-Guided Antegrade Radiofrequency Ablation and Metal Stenting With Hepaticocenterostomy for Malignant Biliary Obstruction: A Prospective Preliminary Study.	Clin Transl Gastroenterol. 2020 Oct;11(10):e00250.	Original Article
20	Inoue T, Yoneda M.	愛知医科大学病院 肝胆膵内科	Evaluating the tissue effects of balloon-based endobiliary radiofrequency ablation in porcine bile ducts.	Int J Hyperthermia. 2020;37(1):1383-1385.	Original Article

21	Inoue T, Ibusuki M, Kitano R, et al.	愛知医科大学病院 肝胆膵内科	EUS-guided hepaticoduodenostomy combined with antegrade metal stenting using an ultrathin flexible delivery system.	Endosc Int Open. 2021 Mar;9(3):E417-E418.	Case report
22	Hiroaki Sawada, Hirohiko Ando, Hiroaki Takashima, et al	循環器内科	Epidemiological Features and Clinical Presentations of Acute Coronary Syndrome in Young Patients	Intern Med. 2020 May 1;59(9):1125-1131.	Original Article
23	Yusuke Nakano, Mayu Suzuki, Ken-Ichi Hirano, et al	循環器内科	Association of Triglyceride Deposit Cardiomyopathy With Drug-Eluting Stent Restenosis Among Patients With Diabetes	JAMA Netw Open. 2020 Aug 3;3(8):e2012583.	Letter
24	Hirohiko Ando, Hirofumi Ohashi, Yusuke Nakano, et al	循環器内科	Detailed Characterization of Vulnerable Plaque Morphology by High-Resolution Intravascular Ultrasound	Circ J. 2020 Aug 25;84(9):1606.	Case report
25	Hirohiko Ando, Masahiro Shimoda, Hirofumi Ohashi, et al	循環器内科	de Winter Electrocardiogram Pattern Due to Vasospastic Angina	Circ J. 2020 Sep 25;84(10):1884.	Case report
26	Hirofumi Ohashi, Hiroaki Takashima, Hirohiko Ando, et al	循環器内科	Clinical feasibility of resting full-cycle ratio as a unique non-hyperemic index of invasive functional lesion assessment	Heart Vessels. 2020 Nov;35(11):1518-1526.	Original Article
27	Tomohiro Onishi, Yusuke Nakano, Ken-Ichi Hirano, et al	循環器内科	Prevalence and clinical outcomes of triglyceride deposit cardiomyopathy among haemodialysis patients	Heart. 2021 Jan;107(2):127-134.	Original Article

28	Kazuhiro Naito, Yusuke Nakano, Katsuhisa Waseda, et al	循環器内科	Impact of antiplatelet therapy on tissue prolapse at super acute phase after stenting: serial OCT study in acute coronary syndrome patients	Heart Vessels. 2021 Feb;36(2):200-210.	Original Article
29	Hirokazu Wakabayashi, Hirohiko Ando, Yusuke Nakano, et al	循環器内科	Temporal changes of incomplete stent apposition during early phase after everolimus-eluting stent implantation: serial optical coherence tomography analyses at 2-week and 4-month	Int J Cardiovasc Imaging. 2021 Feb;37(2):411-417.	Original Article
30	Reiji Goto, Hiroaki Takashima, Hirofumi Ohashi	循環器内科	Independent predictors of discordance between the resting full-cycle ratio and fractional flow reserve	Heart Vessels. 2021 Jun;36(6):790-798.	Original Article
31	Yamaguchi E#, Sakaue S#, Inoue Y, , et al. (# Equal first author)	呼吸器・アレルギー内科	Genetic determinants of risk in autoimmune pulmonary alveolar proteinosis.	Nat Commun. 2021 Feb 15;12(1):1032.	Original Article
32	Katano T, Murao H, Kato T, et al	呼吸器・アレルギー内科	A case of acute inhalation injury caused by premeditated chlorine gas exposure.	Respirol Case Rep. 2021 Mar 26;9(5):e00743.	Case report
33	Daramjav N, Takagi J, Iwayama H.et al.	内分泌・代謝内科	Painless thyroiditis in a dupilumab-treated patient.	Endocrinol Diabetes Metab Case Rep.2020 Jun (オンライン)	Case report

34	Kawagashira Y, Koike H, Takahashi M.	内科学講座(神経内科)	Aberrant expression of nodal and paranodal molecules in neuropathy associated with IgM monoclonal gammopathy with anti-myelin-associated glycoprotein antibodies .	J Neuropathol Exp Neurol. 2020.;79(12):1303-1312 2020.12	Original Article
35	Okada R, Onodera K, Ito T.	内科学講座(神経内科)	Modulation of oxygen tension, acidosis, and cell density is crucial for neural differentiation of human induced pluripotent stem cells.	Neurosci Res. 2021; 163:34-42. 2021.1	Original Article
36	Naoya Matsuoka, Makoto Yamaguchi, Akimasa Asai, et al.	腎臓・リウマチ膠原病内科	The effectiveness and safety of computed tomographic peritoneography and video-assisted thoracic surgery for hydrothorax in peritoneal dialysis patients: A retrospective cohort study in Japan	PLoS One . 2020 Sep 3;15(9)(オンライン)	Original Article
37	Kanasugi, J., I. Hanamura, A. Ota , et al.	愛知医科大学 血液内科	Biallelic loss of FAM46C triggers tumor growth with concomitant activation of Akt signaling in multiple myeloma cells.	Cancer Sci 2020;111(5): 1663-1675	Others
38	Horio, T., E. Morishita, S. Mizuno, et al.	愛知医科大学 血液内科	Donor Heme Oxygenase-1 Promoter Gene Polymorphism Predicts Survival after Unrelated Bone Marrow Transplantation for High-Risk Patients.	Cancers (Basel);2020:12(2)	Others
39	Tomohiro Horio Megumi Enomoto Masaya Watarai, et al.	愛知医科大学 血液内科	Favorable prognostic phenotype in myelodysplastic syndrome with der(1;7)(q10;p10)	eJHaem. 2020;1-5	Others

40	Mizuno S, Yanada M, Kawamura K, et al.	愛知医科大学 血液内科	Allogeneic hematopoietic cell transplantation efficacy in patients with Philadelphia chromosome-positive acute myeloid leukemia in complete remission.	Bone Marrow Transplant. 2020 Jul 31. doi: 10.1038/s41409-020-01011-0. Online ahead of print.	Others
41	Takami A, Tatsumi Y, Sakai K, Toki Y, et al.	愛知医科大学 血液内科	Juvenile Hemochromatosis: A Case Report and Review of the Literature.	Pharmaceuticals (Basel). 2020;13(8)	Others
42	Murakami S, Suzuki S, Hanamura I, et al.	愛知医科大学 血液内科	Combining T-cell-based immunotherapy with venetoclax elicits synergistic cytotoxicity to B-cell lines in vitro	Hematol Oncol. 2020 Dec;38(5):705-714. doi: 10.1002/hon.2794. Epub 2020 Sep 1.	Others
43	Sivasundaram Karnan, Akinobu Ota, Hideki Murakami, et al.	愛知医科大学 血液内科	Identification of CD24 as a potential diagnostic and therapeutic target for malignant pleural mesothelioma	Cell Death Discov. 2020 Nov 18;6(1):127. doi: 10.1038/s41420-020-00364-1.	Others
44	Inukai D, Kan T, Yamanaka S, et al.	愛知医科大学 血液内科	Pathological and Virological Studies of p16-Positive Oropharyngeal Carcinoma with a Good Response to Neoadjuvant Chemotherapy.	Microorganisms. 2020;8(10)	Others
45	Nakagami Y, Uchino K, Okada H, et al.	愛知医科大学 血液内科	Potential role of Howell-Jolly bodies in identifying functional hyposplenism: a prospective single-institute study	Int J Hematol. 2020 Oct;112(4):544-552. doi: 10.1007/s12185-020-02925-7. Epub 2020 Jun 23.	Others
46	Ota A, Hanamura I, Karnan S, et al.	愛知医科大学 血液内科	Novel Interleukin-6 Inducible Gene PDZ-Binding Kinase Promotes Tumor Growth of Multiple Myeloma Cells	J Interferon Cytokine Res. 2020 Aug;40(8):389-405. doi: 10.1089/jir.2020.0111. Epub 2020 Jul 23.	Others

47	Motegi M, Himeno H, Nakai- Shimoda H et al.	糖尿病内科	Deficiency of glucagon gene- derived peptides induces peripheral polyneuropathy in mice.	Biochem Biophys Res Commun 532: 47-53, 2020 Oct.	Original Article
48	Kato M, Tsunekawa S, Nakamura N et al.	糖尿病内科	Secreted factors from stem cells of human exfoliated deciduous teeth directly activate endothelial cells to promote all processes of angiogenesis.	Cells 9: E2385, 2020 Oct.	Original Article
49	Mohiuddin MS, Himeno T, Yamada Y et al.	糖尿病内科	Glucagon Prevents Cytotoxicity Induced by Methylglyoxal in a Rat Neuronal Cell Line Model.	Biomolecules 2021 Feb, 11, 287. (オンライン)	Original Article
50	Okumura A, Saitoh S, Natsume J, et al	小児科	Attitudes of school teachers toward epilepsy in Nagoya, Japan .	Epilepsy Behav . 2020; 103(Pt A):106359 .	Original Article
51	Okumura A,Numoto S, Iwayama H, et al	小児科	Aichi Pediatric Clinical Study Group . Respiratory illness and acute flaccid myelitis in the Tokai district in 2018 .	Pediatr Int . 2020;62:337 – 40 .	Original Article
52	Okumura A,Morioka I, Arai H, et al	小児科	A nationwide survey of bilirubin encephalopathy in preterm infants in Japan .	Brain Dev . 2020;42:730 – 7 .	Original Article
53	Okumura A, Muto T, Nakamura N, et al	小児科	A pilot study of serum free carnitine levels in hospitalized febrile children.	Pediatr Int.2020 Dec5.doi:10.1111/ped 14360.	Original Article

54	Iwayama H, Wakao N, Kurahashi H, et al	小児科	Administration of nusinersen via paramedian approach for spinal muscular atrophy .	Brain Dev. 2020. doi: 10.1016/j.braindev.2020.07.014.	Original Article
55	Miyamoto R, Okuda M, Kikuchi S, et al	小児科	A nationwide questionnaire survey on accidental magnet ingestion in children in Japan .	Acta Paediatr . Epub 2020 Jul 9.doi: 10.1111/apa.15428 .	Original Article
56	Numoto S, Kurahashi H, Iwayama H, et al	小児科	A trial of lacosamide for benign convulsions with gastroenteritis .	Brain Dev . 2020;42:551-4 .	Original Article
57	Nakamura N, Muto T, Masuda Y, et al	小児科	Procalcitonin as a Biomarker of Unresponsiveness to Intravenous Immunoglobulin for Kawasaki Disease .	Pediatr Infect Dis J . 2020;39:857-61 .	Original Article
58	Takagi M, Kato S, Muto T, et al	小児科	Odontohypophosphatemia treated with asfotase alfa enzyme replacement therapy in a toddler: a case report .	Clin Pediatr Endocrinol . 2020;29:115-8 .	Original Article
59	Miyata K, Akaihata M, Shimomura Y, et al	小児科	Harlequin syndrome associated with ganglioneuroblastoma-induced Horner syndrome .	Childs Nerv Syst . 2020 Oct 30. doi: 10.1007/s00381-020-04948-1.	Original Article
60	Saito T, Fukami Y, Uchino T, et al	消化器外科	Preliminary results of robotic inguinal hernia repair following its introduction in a single-center trial.	Annals of Gastroenterological Surgery 2020.6;4(4):441-447	Original Article

61	Kurahashi S, Komatsu S, Matsumura T, et al	消化器外科	A novel classification of aberrant right hepatic ducts ensures a critical view of safety in laparoscopic cholecystectomy.	Surgical Endoscopy 2020.7;34(7):2904-2910	Original Article
62	Saito T, Ogawa T, Kurahashi S, et al	消化器外科	A novel Killian-Jamieson diverticulectomy using a thyroid gland flap: a case report.	Surgical Case Reports 2020.11;6(1):283-287	Case report
63	Fukami Y, Saito T, Arikawa T, et al	消化器外科	European society for clinical nutrition and metabolism (ESPEN) malnutrition criteria for predicting major complications after hepatectomy and pancreatectomy.	World Journal of Surgery 2021.1;45(1):243-251	Original Article
64	Gonda H, Saito T, Osawa T, et al	消化器外科	Ruptured intra-abdominal testicular seminoma with hemorrhage shock, after inadequate surgical exploration for undescended testis: a case report	Surgical Case Reports 2021.3;7(1):65	Case report
65	Sugiyama K, Watanuki H, Okada M, et al	愛知医科大学 心臓外科	Revascularization-first strategy in acute aortic dissection with mesenteric malperfusion	J Card Surg. 2020;35:3004-3009.	Original Article
66	Sugiyama K, Hosokawa Ka, Orimoto Y, et al	愛知医科大学 心臓外科	Huge mycotic aneurysm of the superior mesenteric artery complicated with multiple subarachnoid hemorrhage	Asian Journal of Surgery 43 (2020) 1041e1043	Case report
67	Sugiyama K, Watanuki H, Okada M, et al	愛知医科大学 心臓外科	Resternotomy and coronary artery bypass grafting after omental flap procedure: A case report.	Clin Case Rep. 2020 Sep 28;8(12):3154-3157.	Case report

68	Okada M, Watanuki H, Sugiyama K,et al	愛知医科大学 心臓外科	Potential benefit of non-cardiac arrested thromboembolism of acute pulmonary embolism for the impaired right ventricular function.	Gen Thorac Cardiovasc Surg. 2020 May;68(5):499-502.	Original Article
69	Sugiyama K, Iwhashi T, Koizumi N,et al	愛知医科大学 心臓外科	Surgical treatment for secondary aorto-esophageal fistula	Journal of Cardiothoracic Surgery (2020) 15:251	Original Article
70	Sugiyama K, Mukai K, Watanabe A,et al	愛知医科大学 心臓外科	Feasibility of SAPIEN 3 20-mm Transcatheter Heart Valve Implantation in Aortic Stenosis Patients with a Small Aortic Annulus	J Transcatheter Valve Ther Vol. 3, No. 1 (2021) 7-13	Original Article
71	Sugiyama K, Watanuki H, Futamura Y,et al	愛知医科大学 心臓外科	Prosthetic valve endocarditis caused by silent infection of methicillin-resistant coagulase-negative staphylococci	BMJ Case Rep . 2021 Jan 25;14(1):e236383	Case report
72	Sugiyama K, Fujiyoshi H, Futamura Y,et al	愛知医科大学 心臓外科	Video-Assisted Thoracic Surgery for Residual Aneurysm after Total Arch Replacement	Open Journal of Thoracic Surgery, 2021, 11, 25-30	Case report
73	Sugiyama K, Fujiyoshi T, Koizumi N,et al	愛知医科大学 心臓外科	Nutcracker Phenomenon with Menorrhagia in a Woman with Marfan Syndrome	Annals of Vascular Diseases March 18, 2021	Original Article
74	Sugiyama K, Watanuki H, Futamura Y, et al	愛知医科大学 心臓外科	Surgical treatment for brachiocephalic artery aneurysm with Takayasu arteritis using isolated cerebral perfusion: a case study	J Cardiothorac Surg . 2021 Mar 20;16(1):37.	Case report

75	Sugiyama K, Watanuki H, Futamura Y, et al	愛知医科大学 心臓外科	Effectiveness of Multidetector Computed Tomography in Prosthetic Valve Endocarditis	Open Journal of Thoracic Surgery 11(1) Mar,2021	Case report
76	H Mitsuoka, Y Orimoto, M Hagihara, et al.	血管外科	Spinal Subdural Hematoma owing to the Removal of Cerebrospinal Fluid Drainage Tube During Thoracic Endovascular Aortic Repair	World Neurosurg. 2020, 139: 440-4	Case report
77	Y Orimoto, H Mitsuoka, Y Imaeda, et al.	血管外科	Popliteal Artery Entrapment Syndrome in Siblings	Ann Vasc Dis 2020, 13 (2), 198 -201	Case report
78	H Mitsuoka, Y Orimoto, T Arima, et al.	血管外科	Thoracic Endovascular Aortic Repair for Pseudoaneurysms After Repair of Patent Ductus Arteriosus	Vasc and Endovas Surg 2020, 1-6	Case report
79	H Mitsuoka, T Arima, Y Ohmichi, et al.	血管外科	Analysis of the positional relationship between the left brachiocephalic vein and its surrounding vessels via computed tomography scan	Phlebology 2020, 35: 416-23	Original Article
80	Y Imaeda, H Ishibashi, Y Orimoto, et al.	血管外科	A case of effective balloon fenestration for localized aortic dissection complicated with acute renal and bilateral limb ischemia in a thoracoabdominal aortic aneurysm	Ann Vasc Dis 2021, 14(2): 198-201	Case report
81	矢野智紀	呼吸器外科	Distribution of descending necrotizing mediastinitis and efficacy of distribution-specific drainage.	J Thorac Dis. 2020 May;12(5):2380-2387.	Original Article

82	秋山 崇	呼吸器外科	Surgical site infection at chest tube drainage site following pulmonary resection for malignant lesions.	J Thorac Dis. 2021 Mar;13(3):1445-1454.	Original Article
83	矢野智紀	呼吸器外科	Autoimmune diseases associated with thymoma.	J Vis Surg 2020;6:6	Review
84	Tomosugi T, Iwasaki K, Sakamoto S, et al.	腎移植外科	Clinical Significance of Shared T Cell Epitope Analysis in Early De Novo Donor-Specific Anti-HLA Antibody Production After Kidney Transplantation and Comparison With Shared B cell Epitope Analysis	Frontiers in Immunology 2021 Mar 26;12	Original Article
85	Osuka K, Watanabe Y, Usuda N et al	脳神経外科	Expression of High Mobility Group B1 and Toll-Like Receptor-Nuclear Factor KappaB Signaling Pathway in Chronic Subdural Hematomas.	PLoS One, 15(6):e0233643, 2020	Original Article
86	Ohshima T, Kawaguchi R, Maejima R, et al	脳血管内治療センター	Initial Clinical Experience of Using a Newly Designed Preshaped Microguidewire in Acute Endovascular Thrombectomy	Asian J Neurosurg, 15(1):241-244, 2020	Original Article
87	Ohshima T, Miyachi S	脳血管内治療センター	A Novel Technique for Mitigation of the Ledge Effect Caused by the Use of a Large-Lumen Catheter during Neurointervention: Beanstalk Method.	Asian J Neurosurg, 15(3):753-755, 2020	Original Article
88	Ohshima T, Niwa A, Kawaguchi R, et al	脳血管内治療センター	Novel Technique for Detection of Actual Position of Clot During Endovascular Clot Retrieval: Assessment of Microcatheter Withdrawing Angiography.	World Neurosurg, 137:229-234, 2020	Original Article

89	Aoyama M, Joko M, Niwa A, et al	脳神経外科	Growing Skull Fracture with an Atypical Mechanism: a Case Report	Nagoya J Med Sci, 82(2):377-381, 2020	Case report
90	Maejima R, Aoyama M, Hara M, et al	脳神経外科	Spinal Epidural Hematoma Associated with Epidural Metastasis After Minor Trauma	World Neurosurg, 133:240-244, 2020	Case report
91	Isaji T, Osuka K, Ohmichi Y, et al	救命救急科	Angiopoietins and Angiogenic Signaling Pathway Molecules in Chronic Subdural Hematomas	J Neurotrauma, 37(23):2493-2498, 2020	Original Article
92	Yokota M, Ohshima T, Nagano Y, et al	脳神経外科	A Method to Evaluate Vessel Deviation during Withdrawal of a Stent Retriever	JNET; Journal of Neuroendovascular Therapy, DOI: 10.5797/jnet.oa.2020- 0111, 2020	Original Article
93	Pandit AK, Ohshima T, Kawaguchi R, et al	脳神経外科	Cholesterol Embolization Syndrome After Carotid Artery Stenting Associated with Delayed Cerebral Hyperperfusion Intracerebral Hemorrhage	World Neurosurg, 142:274-282, 2020	Case report
94	Ikemoto T, Shiro Y, Ikemoto K, et al.	整形外科	Feasibility of Imported Self- Management Program for Elderly People with Chronic Pain: A Single-Arm Confirmatory Trial.	Pain Ther 2020 Dec;9(2):583-599.	Original Article
95	Ikemoto T, Ueno T, Arai YC, et al.	整形外科	Open-Label Placebo Trial among Japanese Patients with Chronic Low Back Pain.	Pain Res Manag 2020 Dec 28;2020:6636979.	Original Article

96	Kajita Y, Iwahori Y, Harada Y, et al.	整形外科	Ultrasonographic analysis of the extensor carpi radialis brevis in asymptomatic individuals.	J Orthop Sci 2020 Nov;25(6):999-1002.	Original Article
97	Kajita Y, Iwahori Y, Harada Y, et al.	整形外科	Morphological characteristics of the acromion in Fosbury flop tears and their clinical outcomes after arthroscopic rotator cuff repair.	J Orthop 2020 Nov 4;22:548-552.	Original Article
98	Kawanami K, Hirasawa A, Deie M.	整形外科	The effect of denosumab administration on bone metabolism for treatment of spinal metastasis.	J Orthop. 2021 Jan 29;23:216-218.	Case report
99	Miho Sugie , Taishi Takahara , Akiko Ohashi, et al.	Department of Urology	Presence of corpora amylacea among prostate cancer cells: an unrecognised feature of intraductal carcinoma of the prostate	Pathology . 2021 Aug;53(5):574-578.	Original Article
100	Majima T, Matsukawa Y, Funahashi Y, et al.	Department of Urology	Urodynamic evaluation before and after to RARP to identify pre and intraoperative factors affecting postoperative continence	Neurourol Urodyn. 2021 Jun;40(5):1147-1153	Original Article
101	Sassa N.	Department of Urology	Retroperitoneal tumors: Review of diagnosis and management	Int J Urol. 2020 Dec;27(12):1058-1070.	Review
102	Sassa N, Yokoyama Y, Nishida Y, et al.	Department of Urology	Clinical characteristics and surgical outcomes of retroperitoneal tumors: a comprehensive data collection from multiple departments	Int J Clin Oncol. 2020 May;25(5):929-936.	Original Article

103	Tachibana R, Matsushita M, Minami A, et al.	産婦人科	Dietary sesame diminishes bone mass and bone formation indices in ovariectomized rats	Clin Exp obstet Gynecol, 2020.8	Original Article
104	Owaki Y, Watanabe K, Iwasaki A, et al	産婦人科	Placental hypoplasia and maternal organic vascular disorder in pregnant women with gestational hypertension and preeclampsia	J Matern Fetal Neonatal Med, 2021.2	Original Article
105	Sakurada T, Matsushita H, Noguchi Y, et al	産婦人科	Effects of androgenic properties of progestin combined with ethinyl estradiol on vascular endothelial reactivity, plasma lipids and free radical production in women with endometriosis	J. Obstet. Gynaecol. Res. , 2021.3	Original Article
106	Ueno T, Watanabe K, Ikemoto T, Matsushita H, et al	産婦人科	Patient-reported outcomes after surgery among patients with gynecological diseases in Japan.	J Psychosom Obstet Gynaecol, 2021.3	Original Article
107	Tsuboi K, Shiraki Y, Kamei M, et al	愛知医科大学 眼科	Optimal Display Positions for Heads-Up Surgery to Minimize Crosstalk.	Transl Vis Sci Technol. 2020 Dec 17;9(13):28.	Original Article
108	Tsuboi K, Fukutomi A, Kamei M, et al	愛知医科大学 眼科	Visual Acuity Recovery After Macular Hole Closure Associated With Foveal Avascular Zone Change	Transl Vis Sci Technol. 2020 Jul 14;9(8):20.	Original Article
109	Yasuhiro Takahashi, Satoshi Kakutani, Aric Vaidya, et al	愛知医科大学病院 眼形成・眼窩・涙道外科	Post-traumatic Orbital Abscess in an Adult With No Evidence of Orbital Fracture, Paranasal Sinusitis, or Foreign Body Migration	Cureus 2021 Feb 16; 13: e13376	Case report

110	Patricia Ann L Lee, Hirohiko Kakizaki, Yasuhiro Takahashi	愛知医科大学病院 眼形成・眼窩・涙道外科	Bilateral Epibulbar Dermolipomas in a Patient With Goldenhar Syndrome	J Craniofac Surg 2021 Mar-Apr; 32: e217-8	Case report
111	Yasuhiro Takahashi, Patricia Ann L Lee, Aric Vaidya, et al	愛知医科大学病院 眼形成・眼窩・涙道外科	Tear film break-up patterns in thyroid eye disease	Sci Rep 2021 Mar; 11: 5288	Original Article
112	Patricia Ann L Lee, Shinjiro Kono, Hirohiko Kakizaki, et al.	愛知医科大学病院 眼形成・眼窩・涙道外科	Re: "In Vivo Morphology of Nasolacrimal Duct Opening Into the Inferior Meatus"	Ophthalmic Plast Reconstr Surg 2021 Mar-Apr; 37: 189	Letter
113	Patricia Ann L Lee, Aric Vaidya, Shinjiro Kono, et al.	愛知医科大学病院 眼形成・眼窩・涙道外科	Relationship Between Eyelid Pressure and Lacrimal Status in Mild Facial Nerve Palsy	Cureus 2021 Jan 20; 13: e12830	Original Article
114	Shinjiro Kono, Patricia Ann L Lee, Hirohiko Kakizaki, et al.	愛知医科大学病院 眼形成・眼窩・涙道外科	Amyloidosis in the Palpebral Conjunctiva Mimicking Lymphoproliferative Lesion	Case Rep Ophthalmol 2021 Jan; 12: 73-6	Case report
115	Patricia Ann L Lee, Shinjiro Kono, Hirohiko Kakizaki, et al.	愛知医科大学病院 眼形成・眼窩・涙道外科	Modified Loop Myopexy (Yokoyama's Procedure) for High Myopic Strabismus Fixus	Case Rep Ophthalmol 2021 Jan; 12: 68-72	Case report
116	Shinjiro Kono, Patricia Ann L Lee, Hirohiko Kakizaki, et al.	愛知医科大学病院 眼形成・眼窩・涙道外科	Dacryoendoscopic examination for location of internal orifice of congenital lacrimal fistula: A case series	Int J Pediatr Otorhinolaryngol 2020 Dec; 139: 1104008	Original Article

117	Aric Vaidya, Hirohiko Kakizaki, Yasuhiro Takahashi	愛知医科大学病院 眼形成・眼窩・涙道外科	Changes in horizontal strabismus after inferior rectus muscle recession with or without nasal transposition in thyroid eye disease: A retrospective, observational study	PLoS One 2020 Oct; 15: e0240019	Original Article
118	Satoshi Kakutani, Makoto Ito, Hitohiko Kakizaki, et al.	愛知医科大学病院 眼形成・眼窩・涙道外科	Orbital Decompression for Exorbitism and Exophthalmos in a Patient With Thyroid Eye Disease	J Craniofac Surg 2020 Jul-Aug; 31: e477-9	Case report
119	Aric Vaidya, Patricia Ann L Lee, Yoshiyuki Kitaguchi, et al.	愛知医科大学病院 眼形成・眼窩・涙道外科	Spontaneous orbital decompression in thyroid eye disease: new measurement methods and its influential factors	Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol 2020 Oct; 258: 2321-9	Original Article
120	Aric Vaidya, Hirohiko Kakizaki, Yasuhiro Takahashi	愛知医科大学病院 眼形成・眼窩・涙道外科	Changes in Field of Binocular Single Vision and Ocular Deviation Angle After Balanced Orbital Decompression in Thyroid Eye Disease	Ophthalmic Plast Reconstr Surg 2021 Mar-Apr; 37: 154-60	Original Article
121	Aric Vaidya, Hirohiko Kakizaki, Yasuhiro Takahashi	愛知医科大学病院 眼形成・眼窩・涙道外科	Malignant Lymphoma Mimicking Medial Fat Pad Prolapse: A Pitfall for Upper Eyelid Rejuvenation	J Craniofac Surg 2020 Jun; 31: e359-60	Case report
122	Aric Vaidya, Hirohiko Kakizaki, Yasuhiro Takahashi	愛知医科大学病院 眼形成・眼窩・涙道外科	Postoperative changes in status of meibomian gland dysfunction in patients with involutional entropion	Int Ophthalmol 2020 Jun; 40: 1397-402	Original Article
123	Ma. Regina Paula Valencia, Hidetaka Miyazaki, Hirohiko Kakizaki, et al	愛知医科大学病院 眼形成・眼窩・涙道外科	Thickness of Retro- and Sub-Orbicularis Oculi Fat in Thyroid Eye Disease: Comparison With Controls and Its Influential Factors	Ophthalmic Plast Reconstr Surg 2020 Sep-Oct; 36: 463-8	Original Article

124	Aric Vaidya, Tushar Sarbajna, Hirohiko Kakizaki, et al.	愛知医科大学病院 眼形成・眼窩・涙道外科	Corynebacterium kroppenstedtii as a pathogen of a Jones tube infection following conjunctivodacryocystorhinostomy	Orbit 2020 Dec; 39: 415-7	Case report
125	Eri Ishikawa, Maria Suzanne Sabundayo, Shinjiro Kono, et al.	愛知医科大学病院 眼形成・眼窩・涙道外科	Patency of the lacrimal drainage system in patients with a peripunctal tumour	Orbit 2020 Apr; 39: 102-6	Original Article
126	Yoshitaka Wada, Hidetaka Miyazaki(equal contributor), Hirohisa Kusuhara., et al.	愛知医科大学病院 眼形成・眼窩・涙道外科	Successful Intralesional Laser Therapy for Sclerotherapy-resistant Huge Venous Malformation	Plast Reconstr Surg Glob Open. 2020 Dec; 8(12): e3269	Others
127	Kan T, Ueda H, Kishimoto M, et al	愛知医科大学耳鼻咽喉科	Availability of audiological evaluation for the differential diagnosis of clinical otosclerosis.	Auris Nasus Larynx. 2020 Jun;47(3):343-347	Original Article
128	Kan T, Ueda H, Takahara T, et al	愛知医科大学耳鼻咽喉科	Association of Matrix Metalloproteinase-2 mRNA Expression with Subtypes of Pediatric Cholesteatoma	Biomed Res Int. 2021 Mar 10;2021:6644897	Original Article
129	Inukai D, Nishimura K, Okamoto H, et al.	愛知医科大学耳鼻咽喉科	Identification of cisplatin-resistant factor by integration of transcriptomic and proteomic data using head and neck carcinoma cell lines.	Nagoya journal of medical science 82(3) 519-531 2020	Original Article
130	Ogawa T, Nishimura K, Takahashi Y, et al	愛知医科大学耳鼻咽喉科	Incisionless facial resection for Kadish stage C olfactory neuroblastoma: Transcaruncular approach with combined endonasal and skull base surgery.	Clinical case reports 8(8) 1494-1501 2020	Case report

131	Sano R, Okamoto H, Inukai D, et al.	愛知医科大学耳鼻咽喉科	Thyroid gland flap minimizes mucosal defects at supracricoid partial laryngectomy with cricothyoidopiglottopexy.	Auris, nasus, larynx 47(4) 702-705 2020	Case report
132	Inukai D, Kan T, Yamanaka S, et al.	愛知医科大学耳鼻咽喉科	Pathological and Virological Studies of p16-Positive Oropharyngeal Carcinoma with a Good Response to Neoadjuvant Chemotherapy.	Microorganisms 8(10) 2020	Case report
133	Ogawa T, Inukai D, Okamoto H, et al.	愛知医科大学耳鼻咽喉科	Thyroid Gland Flap for Minimally Invasive Reconstructive Head and Neck Surgery.	Plastic and reconstructive surgery. Global open 8(12) e3297 2020	Original Article
134	Akiko Narita, Toyohiro Ota, Takahiro Yamamoto, et al.	放射線科	Stent graft treatment for coronary sinus hemorrhage associated with esophageal cancer	Minim Invasive Ther Allied Technol. 2020 Jun 5;1-4	Original Article
135	Ito M, Kodaira T, Koide Y, et al.	放射線科	Role of high-dose salvage radiotherapy for oligometastases of the localised abdominal/pelvic lymph nodes: a retrospective study	BMC Cancer. 2020 Jun 9;20:540	Original Article
136	Takahiro Yamamoto, Kyohei Takahata, Seiji Kamei, et al.	放射線科	Granulomatosis with polyangiitis presenting as a solitary renal mass: A case report with imaging and literature review	Radiol Case Rep. 2021 Jan 16:736-741	Case report
137	J Usami, Y Takezawa.	愛知医科大学総合診療科	DPP-4 Inhibitor-associated Bullous Pemphigoid in a Hemodialysis Patient.	Int Med. 2020 ;59: 593	Case report

138	Kajita Y, Terashima T, Mori H, et al.	救命救急科	A longitudinal change of syndecan-1 predicts risk of acute respiratory distress syndrome and cumulative fluid balance in patients with septic shock: a preliminary study	Journal of Intensive Care, 2021 Mar 16;9(1):27	Original Article
139	Takaaki Kishino, Nobuhiro Asai, Wataru Ohashi, et al.	救急診療部、感染症科	Usefulness of serum procalcitonin for necrotizing fasciitis as an early diagnostic tool.	J Infect Chemother. 2021;27:787-793	Original Article
140	Hoshino T, Sasanabe R, Murotani K, et al.	睡眠科	Insomnia as a Symptom of Rapid Eye Movement-Related Obstructive Sleep Apnea.	J Clin Med. 2020 Jun 11;9(6):1821. doi: 10.3390/jcm9061821.	Original Article
141	Takahara T, Satou A, Sugie M, et al.	病理診断科	Prognostic significance of p16 expression in high-grade prostate adenocarcinoma.	Pathol Int.2020 Oct;70(10):743-751	Original Article
142	Sayuri Kondo, Akinobu Ota, Takayuki Ono,	愛知医科大学病院 歯科口腔外科	Discovery of novel molecular characteristics and cellular biological properties in ameloblastoma .	Cancer Medicine , 9(8)2904-2917,2020	Original Article
143	Y. Ishida, Keisuke Maeda, T. onogaki,	愛知医科大学病院 歯科口腔外科	SARC-F as a Screening Tool for Sarcopenia and Possible Sarcopenia Proposed by AWGS 2019 in Hospitalized Older Adults.	The journal of nutrition, health & aging, 24(10), 1053 -1060, 2020 August	Original Article
144	Yuria Ishida , Keisuke Maeda , Yosuke Yamanaka	愛知医科大学病院 歯科口腔外科	Formula for the Cross-Sectional Area of the Muscles of the Third Lumbar Vertebra Level from the Twelfth Thoracic Vertebra Level Slice on Computed Tomography.	Geriatrics,5(3), 47-55, 2020 Sep	Original Article

145	Remi Matsuyama, Keisuke Maeda, Yosuke Yamanaka,	愛知医科大学病院 歯科口腔外科	Assessing skeletal muscle mass based on the cross-sectional area of muscles at the 12th thoracic vertebra level on computed tomography in patients with oral squamous cell carcinoma.	Oral Oncology, 113, 105126, 2021.2	Original Article
146	Nakagami Y, Uchino K, Okada H. et al	中央臨床検査部	Potential role of Howell-Jolly bodies in identifying functional hyposplenism: a prospective single-institute study.	Int J Hematol. 2020 Oct;112(4):544-552.	Original Article
147	Arai YC, Nobuhara R, Aono S, et al.	痛みセンター	Clipping Hind Paws Under Isoflurane Sedation as a Useful Tool for Evaluation of Chronic Pain in CCI Animals.	Anesth Pain Med. 2020 Apr; 10(2): e97758.	Original Article
148	Arai YC, Makino I, Ikemoto T, et al.	痛みセンター	Kampo for the Treatment of Pain in Japan: A Review.	Pain Ther. 2020 Jun; 9(1): 161-170.	Original Article
149	Ushida T, Inoue T, Matsui D, et al.	痛みセンター	Cross-sectional study of patient satisfaction with oral analgesics in patients with chronic pain in Japan.	Expert Opin Pharmacother. 2020 Jun; 21(8): 983-991.	Original Article

150	Shiro Y, Nagai S, Hayashi K, et al.	痛みセンター	Changes in visual attentional behavior in complex regional pain syndrome: A preliminary study.	PLoS One. 2021 Feb; 16(2): e0247064.	Original Article
151	Hayashi K, Miki K, Ikemoto T, et al.	学際的痛みセンター	Associations between the injustice experience questionnaire and treatment term in patients with acute Whiplash-associated disorder in Japan: Comparison with Canadian data.	PLoS One. 2020 Apr; 15(4): e0231077.	Original Article
152	Hayashi K, Aono S, Fujiwara M, et al.	学際的痛みセンター	Difference in eye movements during gait analysis between professionals and trainees.	PLoS One. 2020 Apr. 15(4): e0232246.	Original Article
153	Hayashi K, Fukuyasu- Matsuo S, Inoue T, et al.	学際的痛みセンター	Effects of Cyclic Stretching Exercise on Long-Lasting Hyperalgesia, Joint Contracture, and Muscle Injury Following Cast Immobilization in Rats.	Physiol Res. 2020 Nov; 69(5): 861-870.	Original Article
154	Inagaki H, Ushida T.	学際的痛みセンター	The acoustic startle reflex as a tool for assessment of odor environment effects on affective states in laboratory mice.	Exp Anim. 2021 Feb; 70(1): 119-125.	Original Article
155	Inagaki H, Ushida T.	学際的痛みセンター	The effect of playback of 22-kHz and 50-kHz ultrasonic vocalizations on rat behaviors assessed with a modified open- field test.	Physiol Behav. 2021 Feb; 229: 113251.	Original Article
156	Tanaka S, Nishigami T, Wand BM, et al.	学際的痛みセンター	Identifying participants with knee osteoarthritis likely to benefit from physical therapy education and exercise: a hypothesis- generating study.	Eur J Pain. 2021 Feb; 25(2): 485-496.	Original Article

157	Satoru Takeshita, Hiroki Kakita, Kohki Toriuchi, et al.	周産期母子医療センター	Insufficient thrombopoietin due to hepatic dysmature results in thrombocytopenia in small-for-gestational-age rats.	Br J Haematol. 2021 Feb;192(4):e105-e108.	Letter
-----	---	-------------	---	---	--------

計 157 件

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)
- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)
- 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	高木潤子	レジデントノート	臨床検査専門医が コッソリ教える・・・検査 のtips! 第39回TRAb とTSAb, どうやって使 い分けるの!?	2020;22:(4)750-751	Original Article
2	Makoto Yamaguchi	腎臓・リウマチ膠原病内科	Antineutrophil Cytoplasmic Antibody-Associated Vasculitis Presenting Rapid Progressive Glomerulonephritis With Elevation of Serum Immunoglobulin G4	J Clin Rheumatol . 2020 Oct;26(7):e242- e245.	Case report
3	Hiroya Tanaka	腎臓・リウマチ膠原病内科	Association between sinusitis and relapse and changes in the myeloperoxidase- antineutrophil cytoplasmic antibody in microscopic polyangiitis	PLoS One . 2020 Dec 10;15(12):e0243572.	Original Article
4	Takayuki Katsuno	腎臓・リウマチ膠原病内科	A nationwide cross- sectional analysis of thrombotic microangiopathy in the Japan Renal Biopsy Registry (J- RBR)	Clin Exp Nephrol . 2020 Sep;24(9):789-797.	Original Article
5	Akimasa Asai	腎臓・リウマチ膠原病内科	Carboplatin-related acute interstitial nephritis in a patient with pancreatic neuroendocrine tumor	CEN Case Rep . 2020 May;9(2):114-121.	Case report
6	Makoto Yamaguchi	腎臓・リウマチ膠原病内科	Association between statin use and incidence of relapse in anti-neutrophil cytoplasmic antibody-associated vasculitis: a single- center retrospective cohort study	Rheumatol Int . 2020 Aug;40(8):1291- 1299.	Original Article

7	Akimasa Asai	腎臓・リウマチ膠原病内科	Diffuse alveolar haemorrhage in a case with anti-RNA polymerase III antibody-positive systemic sclerosis successfully treated with plasma exchange and corticosteroid therapy	Mod Rheumatol Case Rep . 2020 Jan;4(1):51-55.	Case report
8	Mayumi Ito	腎臓・リウマチ膠原病内科	Hypertensive emergency presenting with diffuse alveolar hemorrhaging and thrombotic microangiopathy: A case report and review of the literature	Clin Nephrol Case Stud . 2020 Jul 27;8:53-61.	Case report
9	Masayoshi Toda	腎臓・リウマチ膠原病内科	Streptococcus mutans-Induced Infective Endocarditis Associated With Hypocomplementemia and Positive Anti-Double-stranded DNA Antibody	J Clin Rheumatol . 2021 Jan 1;27(1):e15-e16.	Case report
10	内野かおり、阿藤文徳、山田早紀 他	愛知医科大学血液内科	Howell-Jolly小体出現を契機に脾臓低形成が判明した劇症型肺炎球菌感染症	臨床血液 61 巻 (2020) 4 号 318-321	Others
11	高見昭良	愛知医科大学血液内科	亢進後のR-CHOPによる中枢神経系リンパ腫の治療	血液内科 第80巻第6号 (通巻504号) 870-874 2020.6	Others
12	高見昭良	愛知医科大学血液内科	血小板・血漿製剤の輸血療法	日本内科学会 109巻7号 1392-1409 2020.7.10	Others
13	高見昭良	愛知医科大学血液内科	教育・研究最前線 全身を診る医師の養成と、臨床に直結した研究	愛知医科大学学報 第159号 34 2020.7	Others
14	増田 雄、中村奈見、兒玉俊介 他	小児科	Staphylococcus lugdunensisによる乳児尿路感染症の1例	小児科臨床 . 2020;73:1461-4 .	Original Article

15	河原幸平、馮国剛、渡邊督 他	小児科	視力予後が異なった頭蓋咽頭腫の2例.	小児科臨床. 2020;73:1141-5.	Original Article
16	深見保之、松村卓樹、大澤高陽、他	消化器外科	特集 内視鏡外科手術に必要な局所解剖 -肝胆膵脾 腹腔鏡下胆嚢摘出術に必要な局所解剖.	手術2020.4;74(5):749-754	Original Article
17	大澤高陽	消化器外科	定番 + 最新処置のケアの知識をチェック&アップデート 消化器の治療と検査 サックと攻略! はやわかりデータベース (5章)経皮的・カテーテル治療 TAI.	消化器ナーシング 2020.4;2020(春季増刊):192-194	Others
18	大澤高陽	消化器外科	定番 + 最新処置のケアの知識をチェック&アップデート 消化器の治療と検査 サックと攻略! はやわかりデータベース (5章)経皮的・カテーテル治療 TACE.	消化器ナーシング 2020.4;2020(春季増刊):189-191	Others
19	大澤高陽	消化器外科	定番 + 最新処置のケアの知識をチェック&アップデート 消化器の治療と検査 サックと攻略! はやわかりデータベース (5章)経皮的・カテーテル治療 RFA.	消化器ナーシング 2020.4;2020(春季増刊):186-188	Others
20	安井講平、駒屋憲一、松村卓樹、他	消化器外科	肝硬変患者に発症した臍ヘルニア嵌頓整復術後遅発性小腸穿孔の1例.	外科2020.5;82(6):666-669	Case report
21	深見保之、有川卓、大澤高陽、他	消化器外科	特集 膵頭十二指腸切除に必要な外科解剖と手術手技 術前画像を用いた手術シミュレーション.	手術2020.6;74(7):977-984	Case report
22	内野大倫、小松俊一郎、松村卓樹、齊藤卓也、深見保之、佐野力、他	消化器外科	Laparoscopic intersphincteric abdominoperineal resection を施行した直腸癌の1例.	手術2020.10;74(11):1627-1630	Case report

23	原田正晴、深見保之、大澤高陽、他	消化器外科	3年3ヵ月無再発生存した胆嚢癌同時性肝転移の1切除例.	胆道2020.10;34(4):733-740	Case report
24	金子健一朗、加藤翔子、福山貴大、他	消化器外科	特集 出生前診断された小児外科疾患の鑑別と周産期管理 胆道拡張症・胆道閉鎖症.	小児外科 2021.2;53(2):174-179	Original Article
25	毛利有佳子、坂野福奈、伊藤由季絵、他	乳腺・内分泌外科	副甲状腺癌3例の検討-臨床診断と病理診断の不一致について	日本内分泌外科学会雑誌、2020年、37巻、315-321	Case report
26	大須賀 浩二、宮地 茂	脳神経外科	くも膜下出血後の髄液中における好中球誘発因子の経時的発現について	脳血管攣縮 36:129-131, 2020	Original Article
27	渡邊督、岩味健一郎、岸田悠吾、他	脳神経外科	良性腫瘍に対する神経内視鏡手術 今後の方向性	脳神経外科ジャーナルJpn J Neurosurg 29:642-651, 2020	Original Article
28	渡邊督	脳神経外科	軟性鏡と硬性鏡の使い分け	CLINICAL NEUROSCIENCE 38, 416-420, 2020	Review
29	渡邊督	脳神経外科	下垂体腫瘍および、傍鞍部病変に対する内視鏡下経鼻手術	日本臨床. 78: 185-191, 2020	Review
30	大島 共貴	脳血管内治療センター	ミニツク:頸動脈狭窄症・頸動脈ステント留置術	BRAIN NURSUNG Vol 36 24-36, 2020	Review
31	青山正寛、前嶋竜八、高安正和、他	脳神経外科	C2 Translamina screwの長期固定性の検討	Spinal Surgery 34(2) 179-181, 2020	Original Article
32	Ikemoto T, Hayashi K, Shiro Y, et al.	整形外科	A systematic review of cross-cultural validation of the pain catastrophizing scale.	Eur J Pain 2020 Aug;24(7):1228-1241.	Review

33	Kajita Y, Iwahori Y, Harada Y, et al.	整形外科	Incidence of Cutibacterium acnes in open shoulder surgery.	Nagoya J Med Sci. 2021 Feb;83(1):151-157.	Original Article
34	水本強一 瓶井資弘	愛知医科大学 眼科	OCT angiographyにおける白内障手術前後のAngioAnalyticsの比較	日本視能訓練士協会誌 2020.12;49巻Page137-146	Original Article
35	野川千晶 坪井 孝太郎 瓶井 資弘	愛知医科大学 眼科	前眼部Optical coherence tomography angiographyによる虹彩新生血管の経時的観察ができた2症例	日本眼科学会雑誌 2020.10;124巻10号 Page802 - 807	Case report
36	高橋靖弘	愛知医科大学病院 眼形成・眼窩・涙道外科	甲状腺眼症に伴う醜形に対する外科的アプローチ	神経眼科 2020.9; 37: 280-4	Others
37	高橋靖弘	愛知医科大学病院 眼形成・眼窩・涙道外科	小児眼瞼疾患の治療時期	日本の眼科 2021.1; 92: 34-7	Others
38	河野伸二郎、 高橋靖弘	愛知医科大学病院 眼形成・眼窩・涙道外科	腫瘍	眼科手術 2020.4; 33: 183-9	Others
39	柿崎裕彦	愛知医科大学病院 眼形成・眼窩・涙道外科	眼瞼疾患の種類と治療、タイミング	日本の眼科 2021.1; 92: 28-33	Others
40	柿崎裕彦、三戸秀哲、大島忠尚	愛知医科大学病院 眼形成・眼窩・涙道外科	眼球附属器疾患診療、眼形成手術のリスクマネジメント	OCULISTA 2020.5; 86: 77-84	Others
41	成田晶子、泉雄一郎、木村純子、他	放射線医学講座	胆嚢と肝外胆管に発症した胆道原発悪性リンパ腫の1例	臨床放射線 2020 May 65:451-456	Case report
42	伊藤誠、浅井あゆみ、阿部壮一郎、他	放射線医学講座	少数個腹骨盤部リンパ節再発に対する救済照射; 高線量処方による予後改善への期待	臨床放射線 2020 Sep 65:1099-1105	Others

43	藤原祥裕	麻酔科	【術前・術後管理必携2020】合併症を有する患者の術前・術後管理 その他 抗血栓療法中	消化器外科 術前・術後管理必携2020. Apr; 43: 810-3	Review
44	藤原祥裕	麻酔科	【最新主要文献とガイドラインでみる麻酔科学レビュー 2020】内視鏡手術の麻酔	麻酔科学レビュー2020. May; 196-202	Review
45	藤田義人	周術期集中治療部	静注するクスリリスク点滴, クスリといっても異物の投与	LiSA. 2021 Jan; 28: 40-5	Review
46	武山直志	救命救急科	敗血症の病態	明日の臨床 2020; 32: 1-11	Review
47	武山直志	救命救急科	新型コロナウイルス感染症拡大後の救命救急センターのこれまでと現在の状況及び今後の動向について.	名古屋医報 2021; 1475: 2-4	Review
48	都築豊徳	病理診断科	【膀胱癌-最新の診断と治療-】基礎研究 膀胱癌におけるmolecular subtypeの現状と展望	日本臨床79巻1号 Page37-42(2021.01)	Review
49	都築豊徳	病理診断科	【膀胱癌-最新の診断と治療-】総論 病理	日本臨床79巻1号 Page14-22(2021.01)	Review
50	都築豊徳、伊藤貴至、谷口奈都希	病理診断科	前立腺癌の病理診断を巡る様々問題を日本の病理診断は世界標準から周回遅れなのか？(総説)	診断病理37巻3号 Page190-203(2020.07)	Review
51	都築豊徳、伊藤貴至、谷口奈都希	病理診断科	【免疫組織化学 実践的な診断・治療方針決定のために】(第3部)腫瘍の鑑別に用いられる抗体(各臓器別)精巣	病理と臨床38巻臨増 Page161-167(2020.04)	Review
52	都築豊徳	病理診断科	【泌尿器診断の最新スタンダード-平成の常識は令和の非常識】腫瘍 部位別 膀胱癌 病理診断	臨床泌尿器科74巻4号 Page036-039(2020.04)	Review

53	都築豊徳	病理診断科	前立腺癌の病理(図説)	日本臨床78巻6号 Page884-889(2020.06)	Review
54	西尾佳朋	愛知医科大学病院 歯科口腔外科	サブタイプ別に検証した当科における閉塞性睡眠時無呼吸患者の臨床的特徴.	睡眠口腔医学 7(1),32-38, 2020.9	Original Article
55	加藤三香子	愛知医科大学病院 歯科口腔外科	体位依存性および非体位依存性の閉塞性睡眠時無呼吸患者に対する口腔内装置の治療効果.	睡眠口腔医7(2),66-71, 2021.1	Original Article
56	古橋明文	愛知医科大学病院 歯科口腔外科	愛知医科大学病院における口腔内装置(OA)治療の効果判定実施率.	7(2),72-77, 2021.1	Original Article
57	森部 龍一, 菊地 良介, 窄中 美帆,et al.	中央臨床検査部	愛知県における臨床検査精度管理調査の現状と今後の展望 臨床化学検査部門の調査結果と課題	医学検査・ 2020.4:69(2):240-246.	Original Article
58	加藤栄史	輸血部	[その輸血、大丈夫ですか?]やりっぱなしにしない輸血	月刊レジデント 2021.1:14(1):61-68	Others
59	槇山愛弓	輸血部	B亜型が疑われた症例におけるフローサイトメトリーおよびABO遺伝子解析の試み	日本輸血細胞治療学会誌 2020.5:66(2):343	Case report
60	寺嶋祐貴, 城由起子, 青野修一, 他	痛みセンター	各世代における慢性疼痛への影響因子の違い	PAIN RESEARCH. 2020 Jun; 35(2): 107-110.	Original Article
61	Takeshita Satoru, Ichimura Shintaro, Ueda Hiroko, et al.	周産期母子医療センター	新生児の経皮的動脈血酸素飽和度の基準に関する検討	日本周産期・新生児医学会雑誌. 2019 May; 55: 52-5	Original Article
62	福沢嘉孝	愛知医科大学病院 先制・統合医療包括センター	(特集;2020年のがん治療)これからのがんに対する戦略的先制・統合医療(上);がんと診断される以前の医療:未病の段階での戦略的先制・統合医療	統合医療でがんに克つ 139(1) 16-19 2020年	Original Article

63	福沢嘉孝	愛知医科大学病院 先制・ 統合医療包括センター	(特集;2020年のがん 治療)これからのがん に対する戦略的先 制・統合医療(下);既 にがんに罹患した後 の戦略的先制・統合 医療	統合医療でがんに克つ 140(2) 24-27 2020年	Original Article
64	福沢嘉孝	愛知医科大学病院 先制・ 統合医療包括センター	一般社団法人 日本 老化制御医学会の設 立と老化制御の重要 性	統合医療でがんに克つ 141(3) 15-17 2020年	Original Article
65	福沢嘉孝, 岡 田憲己, 神保 太樹	愛知医科大学病院 先制・ 統合医療包括センター	生活習慣病合併脂肪 肝における水溶性ケ イ素の有用性の検討	未病改善医学 1(2) 10-16 2020年	Original Article
66	福沢嘉孝	愛知医科大学病院 先制・ 統合医療包括センター	総説『未病と健康長 寿(健康寿命延伸)』	未病改善医学 1(9) 37-40 2020年9月	Original Article
67	福沢嘉孝, 全 选甫	愛知医科大学病院 先制・ 統合医療包括センター	漢方治療と遺伝子治 療が奏功した舌癌の 1例	世界中医薬学会連合会・ 論文集 1(1) 152-155 2020 年10月	Case report
68	福沢嘉孝, 神 保太樹	愛知医科大学病院 先制・ 統合医療包括センター	総説『水溶性ケイ素と 生活習慣病』	学会誌 FOOD FUNCTION 17(3) 30-36 2021年	Review

計 68 件

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

倫理審査委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
倫理審査委員会の手順書の整備状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
・ 手順書の主な内容 倫理審査業務手順書（委員向け） 総則，用語の定義，審査の流れ，医学部長の要件・責務，医学部長等の責務，倫理委員会の役割・責務，専門委員会の役割・責務 倫理審査申請者標準業務手順書（研究者向け） 基本的事項，研究者等の責務，研究の実施，インフォームド・コンセント等，個人情報保護及び匿名加工情報，重篤な有害事象への対応，研究の信頼性確保	
倫理審査委員会の開催状況	年 12 回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に印を付けること。
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
利益相反の管理に関する規定の整備状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
・ 規定の主な内容 利益相反ポリシー・・・本学の利益相反の基本的な考え方 利益相反規程・・・利益相反管理の基本原則 利益相反規程細則・・・利益相反管理の実施方法等 利益相反委員会規程・・・利益相反委員会の組織，任務等	
利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 4 回

(注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 1 回
<p>・ 研修の主な内容</p> <p>【 A 講習 】</p> <p>「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針について」</p> <p>講師：渡邊大輔教授（医学部倫理委員会委員長）</p> <p>【 B 講習 】</p> <p>「倫理審査申請システムの操作方法について」</p> <p>講師：岡信充臨床研究審査事務室課長</p> <p>令和 3 年 3 月 24 日</p>	

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

消化器内科内科学専門医養成コース 循環器専門医養成コース 呼吸器病学・アレルギー学及び臨床腫瘍学専門医養成コース 内分泌・代謝・糖尿病専門医コース 神経内科専門医養成コース 腎臓・膠原病内科関連専門医・学位取得コース 血液学専門医養成コース 総合診療科全人的診療医養成コース リウマチ学・アレルギー学専門医養成コース 睡眠医療認定医取得コース 集中的脳卒中診療研修コース 輸血・細胞治療学認定医養成コース 病理・細胞診専門医コース 感染症専門医/インфекションコントロール・ドクター養成コース 精神科学専門医養成コース 小児科学専門医養成コース 皮膚科専門医取得コース 放射線科専門医取得コース・放射線科治療専門医取得コース 日本外科学会専門医取得コース 消化器外科学専門医養成コース 心臓外科学専門医養成コース 血管外科専門医養成コース 呼吸器外科学専門医養成コース 乳腺専門医養成コース 脳神経外科専門医養成コース 整形外科専門医養成コース 泌尿器科専門医養成コース 産婦人科卒後6年間コース 形成外科学専門医養成コース 眼科専門医取得コース 耳鼻咽喉科専門医養成コース リハビリテーション専門医取得コース 救命救急科専門医コース 麻酔専門医養成コース 日本ペインクリニック専門医取得コース 口腔外科専修医取得コース

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	100 人
-------------	-------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
春日井邦夫	内科	教授	36年	消化管内科
米田政志	内科	教授	38年	肝胆膵内科
天野哲也	内科	教授	32年	循環器内科
伊藤 理	内科	教授	27年	呼吸器・アレルギー-内科
道勇 学	内科	教授	36年	神経内科,脳卒中センター
伊藤恭彦	内科	教授	39年	腎臓・リウマチ膠原病内科
高見昭良	内科	教授	30年	血液内科
中村二郎	内科	教授	40年	糖尿病内科,糖尿病センター
兼本浩祐	精神科,神経科	教授	38年	精神神経科,こころのケアセンター
奥村彰久	小児科	教授	32年	小児科
佐野 力	外科	教授	35年	消化器外科

松山克彦	心臓血管外科	教授	30年	心臓外科
石橋宏之	心臓血管外科	教授	39年	血管外科
羽生田正行	呼吸器外科	教授	40年	呼吸科外科
中野正吾	外科	教授	30年	乳腺・内分泌外科
小林孝彰	外科	教授	36年	腎移植外科
宮地 茂	脳神経外科	教授	38年	脳神経外科, 脊椎脊髄セン ター
出家正隆	整形外科	教授	33年	整形外科
渡邊大輔	皮膚科	教授	28年	皮膚科
佐々直人	泌尿器科	教授	30年	泌尿器科
若槻明彦	産婦人科	教授	37年	産科・婦人科, 周産期母子医 療セン ター
瓶井資弘	眼科	教授	33年	眼科
藤本保志	耳鼻咽喉科	教授	31年	耳鼻咽喉科
鈴木耕次郎	放射線科	教授	25年	放射線科
藤原祥裕	麻酔科	教授	34年	麻酔科
前川正人	内科	教授	36年	総合診療科, プライマリケアセン ター
古川洋志	形成外科	教授	30年	形成外科
武山直志	救急科	教授	41年	救命救急科, 救命救急セン ター
木村伸也	リハビリテーション科	教授	39年	リハビリテーション科, リハビリテーション部
篠邊龍二郎	内科	教授	31年	睡眠科
三嶋廣繁	内科	教授	32年	感染症科, 感染制御部
都築豊徳	病理診断科	教授	32年	病理診断科
風岡宜暁	歯科口腔外科	教授	37年	歯科口腔外科
加藤栄史	内科	教授	37年	輸血部, 細胞治療セン ター
牛田享宏	整形外科	教授	30年	痛みセン ター

山田恭聖	小児科	教授	27年	周産期母子医療センター
三嶋秀行	外科	教授	37年	臨床腫瘍センター、臨床研究支援センター
久保昭仁	内科	教授	34年	臨床腫瘍センター
森 直治	外科	教授	32年	緩和ケアセンター
畠山 登	麻酔科	教授	32年	周術期集中治療部
福沢嘉孝	内科	教授	37年	先制・統合医療包括センター

- (注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。
- (注) 2 内科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。
- (注) 3 外科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修 **無回答**

医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況 (任意)
<ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容・研修の期間・実施回数・研修の参加人数
業務の管理に関する研修の実施状況 (任意)
<ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容・研修の期間・実施回数・研修の参加人数
他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
<ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容・研修の期間・実施回数・研修の参加人数

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、**がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。**また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画	2. 現状
管理責任者氏名	医療情報部長 深津 博	
管理担当者氏名	医事課 高橋功 病院管理課 市川光生 地域医療連携課 長江二三子 医療情報管理課 加藤真一 薬剤部 大西正文 医療安全管理室 杉本郁夫 感染管理室 三嶋廣繁 臨床工学部 天野哲也	

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録	規則第二十一条の三第二項に掲げる事項	病院日誌	病院管理課
		各科診療日誌	病院管理課
		処方せん	薬剤部
		手術記録	中央カルテ室
		看護記録	中央カルテ室
		検査所見記録	中央カルテ室
		エックス線写真	サーバー
		紹介状	中央カルテ室
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十一条の三第三項に掲げる事項	退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	中央カルテ室
		従業者数を明らかにする帳簿	病院管理課
		高度の医療の提供の実績	医事課
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	病院管理課
		高度の医療の研修の実績	病院管理課
	規則第一条の十一第一項に掲げる事項	閲覧実績	医療情報管理課
		紹介患者に対する医療提供の実績	地域医療連携課
		入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課 薬剤部
		医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理室
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理室
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理室	
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理室	

外来カルテ・入院カルテともに、電子カルテとなっている。
 病歴資料については一患者一番号でカルテと一体になっている。
 診療録の院外持出しは認めていない。

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	感染管理室
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染管理室
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染管理室
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染管理室
		医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器安全管理責任者の配置状況	臨床工学部
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	臨床工学部
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	臨床工学部
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	臨床工学部		

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第一項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全管理室
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染管理室
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医療情報管理課
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	医療情報管理課
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全管理室
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医療安全管理室
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	薬剤部
		監査委員会の設置状況	医療安全管理室
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全管理室
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全管理室
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全管理室
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	医療安全管理室
		職員研修の実施状況	医療安全管理室
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医療安全管理室
		管理者が有する権限に関する状況	総務・秘書室
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	総務・秘書室		
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	総務・秘書室		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	2. 現状	
閲覧責任者氏名	病院事務部長 小寺 努		
閲覧担当者氏名	病院管理課長 市川光生		
閲覧の求めに応じる場所	会議室又は諸記録閲覧室		
閲覧の手続の概要			
申し出があり次第，上長の承認を得てから閲覧する。			

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0	件
閲覧者別	医師	延	件
	歯科医師	延	件
	国	延	件
	地方公共団体	延	件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 指針の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1. 安全管理のための基本的な考え方 2. 医療安全管理責任者の設置 3. 安全管理の体制確保のための委員会 4. 医療安全管理室の設置 5. 医療安全管理者の設置 6. セーフティマネージャーの設置 7. 患者相談窓口の設置 8. 医薬品安全管理責任者等の設置 9. 医療機器安全管理責任者等の設置 10. 医療放射線安全管理責任者等の設置 11. 医療事故発生時の対応方法等 12. 安全管理のための職員研修 13. 高難度新規医療技術を用いた医療の提供 14. 患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針 	
医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 設置の有無（ <input checked="" type="checkbox"/> 有・無 ） ・ 開催状況：年 12 回 ・ 活動の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療の安全管理対策の検討及び推進に関すること 2. 病院において重大な問題その他委員会において取り扱うことが適当な問題が発生した場合における速やかな原因の究明のための調査及び分析に関すること 3. 2の分析の結果を活用した医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の立案及び実施並びに職員への周知に関すること 4. 3の改善のための方策の実施状況の調査及び必要に応じた当該方策の見直しに関すること 5. 入院患者の死亡例，特異事例の報告状況の確認及び確認結果の病院長への報告に関すること 	

6. 5の報告状況が不十分な場合の研修・指導に関する事 7. 医療の安全管理の情報交換に関する事 8. 医療の安全管理のための教育・研修に関する事 9. その他医療の安全管理に関する事	
医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 39 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の内容(すべて)： <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療安全講演会 (1回) 2. 医薬品・医療機器安全講演会 (1回) 3. A E Dを使用した心肺蘇生法 (8回) 4. エコーを使用したC Vカテーテル挿入法 (3回) 5. P I C C研修 (1回) 6. 臨床研修医ガイダンス「当院の医療安全管理体制」(1回) 7. 新規採用医師ガイダンス (1回)(指針・マニュアル等の研修) 8. 中途採用職員(看護師除く)ガイダンス (11回)(指針・マニュアル等の研修) 9. 中途採用看護師ガイダンス(12回)(指針・マニュアル等の研修) 10. 新規採用職員ガイダンス (1回)(指針・マニュアル等の研修) 	
医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機関内における事故報告等の整備 (<input checked="" type="checkbox"/> ・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療安全管理マニュアルの改正 2. 医療安全に関する再発防止策等の報告書提出と実施の確認 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第 1 条の 11 第 2 項第 1 号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <p>院内感染対策に関する基本的な考え方</p> <p>院内感染のための委員会及び感染対策関連組織に関する基本的事項</p> <p>院内感染対策のための従業者に対する研修に関する基本方針</p> <p>感染の発生状況の報告に関する基本方針</p> <p>院内感染発生時の対応に関する基本方針</p> <p>患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針</p> <p>その他，院内感染対策推進のために必要な基本方針</p>	
院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12 回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <p>毎月 1 回第 2 火曜日に定例開催し，次に掲げる事項の審議，報告を実施</p> <p>感染予防対策の確立に関すること</p> <p>感染予防の実施，監視及び指導に関すること</p> <p>感染予防の教育に関すること</p> <p>感染に関する事故等が発生した場合における原因究明に関すること</p> <p>院内感染対策のための指針の策定及び変更</p> <p>その他感染予防に関すること</p>	
従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 18 回
<p>・ 研修の内容（すべて）：</p> <p>感染予防に関する講演会（年 2 回）</p> <p>キャリア・ディベロップメント講座（年 7 回）</p> <p>愛知県実践感染症カンファランス（年 6 回）</p> <p>新規採用者ガイダンス（年 1 回）</p> <p>研修医オリエンテーション（年 1 回）</p> <p>新規採用看護師オリエンテーション（年 1 回）</p> <p>他に，委託職員を対象に，新型コロナウイルス感染症対策のための研修を都度実施</p>	

感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況

- ・ 病院における発生状況の報告等の整備 (・無)
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：

ICTによるラウンドの実施

リンクナースによる感染対策推進活動の実施

SSIサーベイランスの実施

ICUサーベイランスの実施

BSIサーベイランスの実施

全病院サーベイランスの実施

耐性菌サーベイランスの実施

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 1 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： 「当院の未承認新規医薬品について」（Web開催）（令和2年7月7日～8月10日） 	
<p>医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 手順書の作成（有・無） ・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1. 医薬品の採用と医薬品購入 2. 医薬品の管理に関すること 3. 患者に対する医薬品の投薬指示から調剤に関すること 4. 患者に対する与薬および薬剤管理指導業務に関すること 5. 医薬品の安全使用に係わる情報収集・管理・提供に関すること 6. 在宅患者への医薬品使用に関すること 7. 他施設との連携に関する事項 8. 医薬品の安全使用のための業務手順書に関する研修に関すること 9. 未承認新規医薬品等の適正使用に関すること 	
<p>医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 医薬品に係る情報の収集の整備（有・無） ・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例（あれば）： <ul style="list-style-type: none"> ・ トシリズマブ：COVID-19の重症肺炎 ・ イベルメクチン：COVID-19患者への使用 ・ コラーゲン使用軟組織注入材：声帯麻痺に対する声帯内注入療法 ・ ミコフェノール酸モフェチル：治療抵抗性、難治性の間質性肺炎を併発した皮膚筋炎 ・ ボノプラザン+アモキシシリン+クラリスロマイシン：H. heilmanni感染症に対する除菌治療 ・ その他の改善のための方策の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療安全管理マニュアルの改正 2. 医療安全に関する再発防止策等の報告書提出と実施の確認 3. 入退院センターに薬剤師の配置（手術前・検査前中止薬の確認と相談） 4. 病棟担当薬剤師による翌日使用分注射薬セットの監査（入院患者注射施用の安全性確保） 5. 外来でのがん疼痛患者への服薬指導（抗がん剤の安全使用） 6. 外来窓口でのがん患者服薬指導開始（抗がん剤の安全使用） 7. DICSPSを使用して医薬品の安全管理 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第 1 条の 11 第 2 項第 3 号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 38 回
<p>・ 研修の主な内容： 例年 4 月の新入職員に対するオリエンテーションの際に，臨床工学部技士により人工呼吸器，輸液ポンプ等の機器について臨床工学部資料，メーカーマニュアルなどにより実機を用いて取扱説明及び注意喚起を行っている。また，機会ごとに実機もしくは，リモートにおいて安全使用のための講習を行っている。</p>	
医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る計画の策定 (有・無) ・ 機器ごとの保守点検の主な内容： 例年 3 月に策定されており，それらに沿って保守管理が行われている。点検校正器及び治具などを用いメーカー推奨値を照らし合わせ点検を行う。</p>	
医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有・無) ・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例 (あれば)： 1 件あり；アテロコラーゲン</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容： 医療機器を安全に使用するために注意喚起などのラベルを貼る。 簡易マニュアルなど整備し添付する。また，定期的に臨床工学部技士により勉強会，機器説明会等を行い情報共有に努める。</p>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号の二に掲げる事項の実施状況

医療安全管理責任者の配置状況	有・無
<p>・責任者の資格（医師・歯科医師）</p> <p>・医療安全管理責任者による医療安全管理部門，医療安全管理委員会，医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療安全管理責任者は，医療安全，医薬品安全，医療機器安全及び医療放射線安全について必要な知識を有する副院長（医療安全担当）をもって充てている。 ・医療安全管理責任者は，副院長として病院長の医療安全管理業務を補佐している。 ・医療安全管理室員，医薬品安全管理責任者，医療機器安全管理責任者，医療放射線安全管理責任者を構成員とする医療安全管理部門会議を毎週開催し，院内の医療安全に関する情報の収集，改善方策の検討，指示等を行っている。 ・医療安全管理委員会の委員長となっている。 ・医療事故発生時の医療問題検討会の委員長となっている。 	
専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有（15名）・無
<p>医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況 <ul style="list-style-type: none"> ○ブルーレーター（ジョイクル関節注）が出た際は使用予定患者の主治医に連絡をとり（使用済みの患者はいなかった）情報を提供した。また，全病院職員にメールをして周知した。 ○医薬品・医療機器等安全性情報とDSUは全病院職員にメールをしている。 ○回収案内に対して迅速に行動している（全病院職員にメール，院内にある在庫の回収等） ○副作用情報の収集を行い，医療安全・院長・PMDAへ報告を行っている。 ○薬剤部員に対して，新規採用医薬品や限定購入医薬品の薬の情報を伝える。 ・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況 <p>以下の方法にて未承認等の医薬品の使用状況を把握し，については必要がある場合には 未承認新規医薬品等評価部門への申請を依頼。</p> <ul style="list-style-type: none"> 診療科からの未承認新規医薬品等評価部門への申請 医師からの使用成績報告書の提出 院内製剤の処方歴 診療科からの未承認新規医薬品等評価部門への申請 医師からの使用成績報告書の提出 院内製剤の処方歴 	

・担当者の指名の有無 (・無)

未承認新規医薬品等評価部門長	大西正文
未承認新規医薬品等評価部門委員	牛田亨宏, 前川正人, 加藤栄史, 矢野智紀, 辻晶, 中村勝, 宇野英理子, 野々垣知行
未承認新規医薬品等評価部門事務局	深谷さおり, 黒瀬優輔
未承認新規医薬品等評価委員会委員長	牛田亨宏
未承認新規医薬品等評価委員	前川正人, 加藤栄史, 三嶋秀行, 杉本郁夫, 手塚剛彦

・担当者の所属・職種:

大西正文	(所属: 薬剤部, 職種: 薬剤師)
牛田亨宏	(所属: 痛みセンター, 職種: 医師)
前川正人	(所属: 総合診療科, 職種: 医師)
加藤栄史	(所属: 輸血部, 職種: 医師)
矢野智紀	(所属: 呼吸器外科, 職種: 医師)
辻 晶	(所属: 臨床工学部, 職種: 臨床工学技士)
中村 勝	(所属: 中央放射線部, 職種: 放射線技師)
宇野英理子	(所属: 薬剤部, 職種: 薬剤師)
野々垣知行	(所属: 薬剤部, 職種: 薬剤師)
深谷さおり	(所属: 薬剤部, 職種: 薬剤師)
黒瀬優輔	(所属: 薬剤部, 職種: 薬剤師)
三嶋秀行	(所属: 臨床腫瘍センター, 職種: 医師)
杉本郁夫	(所属: 医療安全管理室, 職種: 医師)
手塚剛彦	(所属: 薬剤部, 職種: 薬剤師)

医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況

・無

・医療の担い手が説明を行う際の同席者, 標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (・無)

・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認, 及び指導の主な内容:

【遵守状況の確認】

・医療安全管理院内小ラウンド及び全体ラウンドにおいて, スタッフにヒアリング, 指導を実

施。

また、患者カルテにて説明・同意書の内容、同意取得時の患者家族の理解度についての記載を確認。

【指導の主な内容】

- ・ I・Cの手順が規程どおりに進められているか。
- ・ I・Cの説明内容が規程どおりとなっているか。
- ・ 説明書及び同意書に規程どおり必要項目は網羅されているか。
- ・ 説明書及び同意書が規程どおり必要な診療行為かどうか。
- ・ 説明書及び同意書の出力、署名、保存方法は規程どおり適切かどうか。
- ・ I・Cの実施状況についての職員研修会での指導。

診療録等の管理に関する責任者の選任状況

有・無

- ・ 診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：

診療記録不備に対する項目を主治医に通知し、追記および訂正を依頼する。

毎週月曜日に各診療科全体の記載不備事項を各診療科部長および医局長に通知する。

サマリー完成率を部長会および医局長会で通知ならびに記載遅滞医師を公表する。

診療録管理委員会を開催し適切な指導をする。

医療安全管理部門の設置状況

有・無

- ・ 所属職員：専従（ 11 ）名，専任（ 1 ）名，兼任（ 2 ）名

うち医師：専従（ 1 ）名，専任（ 1 ）名，兼任（ 2 ）名

うち薬剤師：専従（ 1 ）名，専任（ ）名，兼任（ ）名

うち看護師：専従（ 3 ）名，専任（ ）名，兼任（ ）名

（注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること

- ・ 活動の主な内容：

1. 医療の安全を確保するための改善方策に関すること。
2. 医療安全管理のための職員の教育・啓発に関すること。
3. 医療事故発生時の対応に関すること。
4. 医療に係る安全の確保に資する診療の状況の把握
5. 職員の医療の安全に関する意識の向上の状況の確認

6. 医療安全管理委員会の円滑な運営に関すること。
7. 医療安全管理に関する院内の連絡調整
8. その他医療安全管理に関する業務

平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。
医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

- ・ 中心静脈カテーテル挿入時には「中心静脈カテーテル挿入時のチェック項目表」を記載し、医療安全管理室に提出後、電子カルテにスキャンして保存する。合併症等が発生した場合は「中心カテーテル挿入に関する合併症報告」を記載し、医療安全管理室に提出する。
- ・ 医療安全に関する講演会、研修会でアンケートを実施し、認識や理解度を確認している。
- ・ 全職員対象に「医療安全文化に関する意識調査」を実施し、結果を職種ごとに考察している。

高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・ 前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（ 2 件 ）、及び許可件数（ 2 件 ）
- ・ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（ 有 ・ 無 ）
- ・ 高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（ 有 ・ 無 ）
- ・ 活動の主な内容：
 - ・ 診療科の長から高難度規程第 5 条第 1 項の規程に基づく申請が行われた場合において、当該申請の内容を確認するとともに、高難度新規医療技術評価委員会（以下「委員会」という）に対して当該高難度新規医療技術の提供の適否、実施を認める条件等について意見を求めること。
 - ・ 高難度新規医療技術の提供の適否、実施を認める条件等についての意見の求めに応じ、委員会が述べた意見を踏まえ、当該高難度新規医療技術の提供の適否等について決定し、申請を行った診療科の長に対しその結果を適否結果通知書により通知すること。
 - ・ 高難度規程に基づき、定期的に、及び術後に患者が死亡した場合その他必要な場合には、その都度診療録等の記載内容を確認し、当該高難度新規医療技術が適正な手続きに基づいて提供されていたかどうか、職員の遵守状況を確認すること。
 - ・ 高難度新規医療技術の提供の適否等について決定したとき、及び前号により職員の遵守状況を確認したときは、その内容について病院長に報告すること。
 - ・ 委員会での審査資料及び議事概要並びに職員の遵守状況の確認記録を審査の日又は確認の日か

<p>ら少なくとも5年間保存すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委員会に係る事務を行うこと。 ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無 (<input checked="" type="checkbox"/>・無) ・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無 (<input checked="" type="checkbox"/>・無)
<p>未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数 (8 件) , 及び許可件数 (7 件) ・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無 (<input checked="" type="checkbox"/>・無) ・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無 (<input checked="" type="checkbox"/>・無) ・活動の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ・未承認新規医薬品等使用申請の内容確認，評価委員会への審議依頼，使用の適否等の決定，申請資料・調査資料等の保管 ・申請医薬品使用患者のカルテ・順守状況等の確認，使用成績報告書の確認 ・上記内容につき院長への報告書を適宜作成，月間報告書の作成 ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無 (<input checked="" type="checkbox"/>・無) ・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無 (<input checked="" type="checkbox"/>・無)
<p>入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 477 件 ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 20 件 ・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容 <ol style="list-style-type: none"> 1．入院患者の死亡例，特異事例の報告状況の確認及び確認結果の病院長への報告に関すること 2．1の報告状況が不十分な場合の研修・指導に関すること
<p>他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・他の特定機能病院等への立入り (<input checked="" type="checkbox"/> (病院名： 兵庫医科大学病院) ・無) ・他の特定機能病院等からの立入り受入れ (<input checked="" type="checkbox"/> (病院名： 兵庫医科大学病院) ・無)

・技術的助言の実施状況

助言内容・実施状況：

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため，相互に訪問するラウンドが原則中止となり，書類により確認・質問の実施をしたが，双方において技術的助言はなかった。

当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

・体制の確保状況

患者相談窓口を中央棟 1 階 15 番窓口に設置している。

担当者は，看護師，薬剤師，社会福祉士又はその他医療有資格者等としている。

責任者は，医療安全管理責任者（医療安全担当副院長）としている。

対応時間は，月曜日から金曜日（祝日・休日・年末年始を除く）午前 8 時 30 分から午後 5 時 15 分までとしている。

患者・家族等からの苦情・相談については病院長に報告するとともに，関係部署に対しても報告し，速やかな解決に向けた連絡調整を行っている。

担当者及び関係者の守秘義務について医療安全管理マニュアルに明記している。

（医療安全管理マニュアル 015 患者相談窓口設置要綱 に明記）

担当者及び関係者は，苦情・相談により患者や家族が不利益を受けないよう適切な配慮をしなければならないことを医療安全管理マニュアルに明記している。

（医療安全管理マニュアル 015 患者相談窓口設置要綱 に明記）

担当者及び関係者は，患者，家族等からの苦情・相談内容の秘密保護に努めなければならないことを医療安全管理マニュアルに明記している。

（医療安全管理マニュアル 015 患者相談窓口設置要綱 に明記）

患者相談窓口があることについて，ホームページ，院内掲示や入院・外来パンフレットにより患者・家族に案内している。

職員研修の実施状況

・研修の実施状況

○医療安全管理に係る職員研修実施要領において，研修項目として次の事項を定めている。

《医療安全管理に関する職員研修》

- ・ インシデント報告，アクシデント報告等の流れ，医療安全に係る具体的事例の改善策等に関する事項
- ・ インフォームド・コンセントの適切な実施に関する規程の遵守状況に関する事項

- ・ 診療録管理規程の遵守状況に関する事項
- ・ 職員の安全意識の状況に関する事項
- ・ 医療安全に資する診療内容のモニタリングに関する事項
- ・ 高難度新規医療技術の提供に関する規程の遵守状況に関する事項
- ・ 未承認新規医薬品等の使用に関する規程の遵守状況に関する事項
- ・ 医療安全の確保に関する監査委員会からの意見に関する事項
- ・ 全死亡例報告，特異事例報告に関する事項
- ・ 私立大学病院相互ラウンドに関する事項
- ・ 患者相談に関する事項
- ・ 医療安全に関する情報提供受付窓口の使用方法に関する事項
- ・ 医師，歯科医師，薬剤師，看護師その他の職員が連携及び協働して医療を提供するために必要な知識及び技能であって，高度の医療を提供するために必要な事項

《医薬品の安全使用に関する職員研修》

- ・ 医薬品の有効性・安全性に関する情報，使用方法に関する事項
- ・ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書に関する事項
- ・ 医薬品による副作用等が発生した場合の対応(施設内での報告，行政機関への報告等)に関する事項

《医療機器の安全使用に関する職員研修》

- ・ 新しい医療機器の導入時の研修
- ・ 医療機器の有効性・安全性に関する事項
- ・ 医療機器の使用方法に関する事項
- ・ 医療機器の保守点検に関する事項
- ・ 医療機器の不具合等が発生した場合の対応(院内での報告，行政機関への報告等)に関する事項
- ・ 医療機器の使用に関して特に法令上遵守すべき事項

○開催頻度は，医療安全管理に関する職員研修は年に2回程度。医薬品・医療機器の安全使用に関する職員研修は必要に応じて実施しており，病院長等の講義，院内での報告会，事例分析，外部講師を招聘しての講習，外部の講習会・研修会の伝達報告会又は有益な文献の抄読等の方法によって行う。

○医療安全管理に関する職員研修に欠席した職員については、DVD 鑑賞，e-learning 等を活用して、全ての病院職員に研修内容の周知を図っている。

(注) 前年度の実績を記載すること (の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

管理者，医療安全管理責任者，医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

管理者：

令和2年10月15日 特定機能病院管理者研修受講（公益財団法人 日本医療機能評価機構）

医療安全管理責任者：

令和2年11月11日 特定機能病院管理者研修受講（公益財団法人 日本医療機能評価機構）

医薬品安全管理責任者：

令和2年10月15日 特定機能病院管理者研修受講（公益財団法人 日本医療機能評価機構）

医療機器安全管理責任者：

令和3年1月28日 特定機能病院管理者研修受講（公益財団法人 日本医療機能評価機構）

(注) 前年度の実績を記載すること

医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況，当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況，当該評価を踏まえ講じた措置の状況

・第三者による評価の受審状況

日本医療機能評価機構が実施する一般病院2の認定を受けている。

（認定期間：2015年10月17日～2020年10月16日までの5年間だが，現在新型コロナウイルス感染症対応における訪問審査延期特例措置により，1年間（2021年10月15日まで）の猶予を適用しています。）

・評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況

ホームページにて公表

・評価を踏まえ講じた措置

一般病院2の評価結果において，改善要望事項はない。

(注) 記載時点の状況を記載すること

規則第7条の2の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

<p>管理者に必要な資質及び能力に関する基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基準の主な内容 <ol style="list-style-type: none"> 1 臨床医学部門の教授(大学附属施設, 医学部附属施設及び研究所の臨床医学系教授を含む。)であること。 2 医療安全管理業務の経験, 患者安全を第一に考える姿勢・指導力等の医療の安全の確保のために必要な資質及び能力を有すること。 3 医療機関等における経営管理に関する識見並びに組織管理経験等を含んだ組織管理能力等の病院を管理運営する上で必要な資質及び能力を有すること。 4 病院が懸案とする当面の課題を解決する意欲及び能力を有すること。 ・ 基準に係る内部規程の公表の有無 (<input checked="" type="checkbox"/>・無) ・ 公表の方法 ホームページにて公表

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無 (<input checked="" type="checkbox"/>・無) ・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無 (<input checked="" type="checkbox"/>・無) ・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無 (<input checked="" type="checkbox"/>・無) ・ 公表の方法 ホームページにて公表 	

管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (を付す)	選定理由	特別の関 係
祖父江 元	愛知医科大学	○	本学理事長	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
祖父江 元	"		本学学長	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
若槻 明彦	"		本学医学部長	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
坂本真理子	"		本学看護学部長	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
島田 孝一	"		本学法人本部長	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
羽根田雅巳	"		本学事務局長	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
石川 清	愛知医療学院短期		学識経験者のうちから理事会に	有・ <input checked="" type="checkbox"/>

	大学		において選任した者（病院経営に関する高い識見を有している。）	
野田賢次郎	税理士法人コスモス		学識経験者のうちから理事会において選任した者（病院経営に関する高い識見を有している。）	有・ 無

規則第9条の2 3第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無		有・無	
<p>・合議体の主要な審議内容</p> <p>一 病院の運営方針に関する事。</p> <p>二 病院の中期計画に関する事。</p> <p>三 病院内の諸規則及び制度の制定及び改廃に関する事。</p> <p>四 各種の委員会の設置及び改廃に関する事。</p> <p>五 病院の予算及び決算に関する事。</p> <p>六 病院職員の人事に関する事。ただし、病院事務職員は除く。</p> <p>七 病室及び病床等の運用に関する事。</p> <p>八 医学部学生、看護学生等の臨床実習に関する事。</p> <p>九 臨床研修医の研修に関する事。</p> <p>十 その他病院の運営に関する重要事項</p> <p>・審議の概要の従業者への周知状況</p> <p>医局長会、看護師長会、業務連絡会等で周知</p> <p>・合議体に係る内部規程の公表の有無（有・<input checked="" type="checkbox"/>無）</p> <p>・公表の方法</p> <p>（調整中）</p> <p>・外部有識者からの意見聴取の有無（有・<input checked="" type="checkbox"/>無）</p>			
合議体の委員名簿			
氏名	委員長 （を付す）	職種	役職
藤原祥裕	○	医師	病院長
杉本郁夫		医師	副院長
天野哲也		医師	副院長
武山直志		医師	副院長

春日井邦夫		医師	副院長
道勇学		医師	副院長
中野正吾		医師	副院長
出家正隆		医師	副院長
井上里恵		看護師	副院長
三嶋秀行		医師	副院長
馬場研二		医師	部長（メディカルクリニック）
米田政志		医師	部長（肝胆膵内科）
伊藤理		医師	部長（呼吸器・アレルギー内科）
伊藤恭彦		医師	部長（腎臓・リウマチ膠原病内科）
高見昭良		医師	部長（血液内科）
中村二郎		医師	部長（糖尿病内科）
兼本浩祐		医師	部長（精神神経科）
奥村彰久		医師	部長（小児科）
佐野力		医師	部長（消化器外科）
松山克彦		医師	部長（心臓外科）
石橋宏之		医師	部長（血管外科）
羽生田正行		医師	部長（呼吸器外科）
小林孝彰		医師	部長（腎移植外科）
宮地茂		医師	部長（脳神経外科）
渡邊大輔		医師	部長（皮膚科）
佐々直人		医師	部長（泌尿器科）
若槻明彦		医師	部長（産科・婦人科）
瓶井資弘		医師	部長（眼科）
柿崎裕彦		医師	部長（眼形成）
藤本保志		医師	部長（耳鼻咽喉科）
鈴木耕次郎		医師	部長（放射線科）
前川正人		医師	部長（総合診療科）
古川洋志		医師	部長（形成外科）
木村伸也		医師	部長（リハビリテーション科）
篠邊龍二郎		医師	部長（睡眠科）

三鴨廣繁		医師	部長（感染症科）
都築豊徳		医師	部長（病理診断科）
風岡宜暁		医師	部長（歯科・口腔外科）
中山享之		医師	部長（中央臨床検査部）
伊藤洋		医師	部長（中央材料部）
加納秀記		医師	部長（救急診療部）
加藤栄史		医師	部長（輸血部）
牛田享宏		医師	部長（痛みセンター）
山田恭聖		医師	部長（周産期母子医療センター）
(道勇学)		医師	部長（脳卒中センター）
久保昭仁		医師	部長（臨床腫瘍センター）
森直治		医師	部長（緩和ケアセンター）
藤田義人		医師	部長（周術期集中治療）
原 政人		医師	部長（脊椎脊髄センター）
福沢嘉孝		医師	部長（先制・統合医療包括センター）
齋木英資		医師	部長（パーキンソン病総合治療センター）
佐々木誠人		医師	部長（炎症性腸疾患センター）
深津博		医師	部長（医療情報部）
大西正文		薬剤師	部長（薬剤部）
小寺努		事務職員	部長（病院事務部）
中條孝弘		事務職員	部長（医事管理部）

規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（ 有・ ）
- ・ 公表の方法

- ・ 規程の主な内容
 - 1 「事務決裁規程」等において、病院長の人事権限等を明確化している。
 - 2 「法人の経理に関する権限の委任及び専決の取扱基準」において、病院長の予算執行権限を明確化している。

- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割
病院管理課

- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況
人事・厚生室

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する状況

監査委員会の設置状況					<input checked="" type="checkbox"/> ・無
<p>・監査委員会の開催状況：年 2 回</p> <p>・活動の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療安全管理責任者，医療安全管理部門，医療安全管理委員会，医薬品安全管理責任者，医療機器安全管理責任者，医療放射線安全管理責任者等の業務の状況について病院長等から報告を求め，又は必要に応じて自ら確認を実施すること。 ・必要に応じ，理事長又は病院長に対し，医療に係る安全管理についての是正措置を講ずるよう意見を表明すること。 <p>・監査委員会の業務実施結果の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/>・無 ）</p> <p>・委員名簿の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/>・無 ）</p> <p>・委員の選定理由の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/>・無 ）</p> <p>・監査委員会に係る内部規程の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/>・無 ）</p> <p>・公表の方法：</p> <p>ホームページにて公表している。</p>					
監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）					
氏名	所属	委員長 （を付す）	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
黒神聡	愛知学院大学		法律学に関する専門知識に基づいて，教育，研究又は業務を行っている者	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	1
鳥井彰人	瀬戸旭医師会		医療機関において医療安全に関する業務に従事した経験を持つ者又は医療安全に係る研究に従事した経験を有する者	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	1
鈴木孝美	長久手市・副市長		医療等の内容及び説明並びに同意文書が一般的に理解できる内	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	2

			容であるか等，医療を受ける立場から意見を述べる ことができる者		
祖父江元	愛知医科大学		愛知医科大学学長	有・無	3
若槻明彦	愛知医科大学		愛知医科大学医学部長	有・無	3

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)
3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを
確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

- ・体制の整備状況及び活動内容
- ・ 専門部署の設置の有無 (・ 無)
- ・ 内部規程の整備の有無 (・ 無)
- ・ 内部規程の公表の有無 (有 ・)
- ・ 公表の方法

規則第 15 条の 4 第 1 項第 3 号ロに掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 病院の管理運営状況の監督については、病院の開設者である理事長を含む常任理事会が、定期的に報告される病院運営状況について検討を行い、必要に応じて理事会に報告を行っている。 ・ 会議体の実施状況（ 年 34 回 ） ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（ <input checked="" type="checkbox"/>・無 ）（ 年 33 回 ） ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（ 有・<input checked="" type="checkbox"/> ） ・ 公表の方法 			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (を付す)	利害関係
			有・無
			有・無
			有・無
			有・無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第 15 条の 4 第 1 項第 4 号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
<ul style="list-style-type: none">・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無)・ 通報件数 (年 0 件)・ 窓口を提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無)・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無)・ 周知の方法 職員用ホームページにて周知している。

(様式第7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 果たしている役割に関する情報発信

果たしている役割に関する情報発信の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
・ 情報発信の方法，内容等の概要 方法 リーフレットの配布・掲示 ホームページ 病院広報誌 院内デジタルサイネージ等 内容 当院の医療連携上の役割 前方・後方連携への協力要請等	

2 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
・ 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 外来において，循環器内科と心臓外科・血管外科，消化管内科・肝胆膵内科と消化器外科などの関連する診療科を同じブロックに配置し，共同診療に配慮している。 診療科間で依頼箋により情報交換し，専門分野の診療を共同して行っている。入院診療においては，共同カンファレンスを行って診療を行っている。 疾患の必要に応じて，複数の診療科による共同の手術を行っている。 救命救急センターにおいて，救命救急科と専門診療科が毎朝カンファレンスを行い，連携して診療に当たっている。	